

# 目 次

《2015 年度研究部活動報告》	
運営委員会	1
運営委員・研究分科会代表者合同会議	3
研究会	3
研修委員会	4
研修会	6
研究分科会	6
研修分科会	7
《2015 年度研究分科会活動報告》	
1. 分類研究分科会	8
2. 西洋古版本研究分科会	11
3. 和漢古典籍研究分科会	13
4. パブリック・サービス研究分科会	16
5. 企画広報研究分科会	19
6. レファレンス研究分科会	21
《2015 年度研修分科会活動報告》	25
《研究分科会刊行物一覧》	27
《2015 年度研究分科会月例会について（報告）》	28
《2016/2017 年度研究分科会会員の更新結果（報告）》	29
《研究講演会》	32
《研修会》	
2015 年度研修会 2015 年 11 月 4 日（木）～11 月 5 日（金）	33
テーマ：大学の国際化と図書館英会話―“成城留学”で役立つ英語を学ぶ―	
・大学の国際化と図書館 (木畑 洋一)	37
・豪州図書館事情から学ぶ：本と電子の狭間で (指宿 信)	41
・大学図書館英語対応事例 (久松 薫子)	54
《2015 年度研修委員会報告》 (研修委員長 伊能 秀明)	58
《2015 年度 東地区部会研究部決算報告書・監査報告書》	61
《2016 年度 研究部活動計画（案）》	62

《2016年度 東地区部会研究部予算（案）》 .....	63
《関係規程》	
研究部細則 .....	64
研究分科会申し合わせ .....	66
研修委員会規則 .....	68

## 《2015 年度研究部活動報告》

### 1. 運営委員会

運営委員（任期 2015 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日）

委員 青木 みちる（学習院大学）

秋場 理世（白百合女子大学）

佐藤 友治（文化学園大学）

吉田 真希子（慶應義塾大学）

金沢 美都子（早稲田大学）（任期 2015 年 4 月 1 日～2015 年 11 月 30 日）

鈴木 努（早稲田大学）（任期 2015 年 12 月 1 日～2017 年 3 月 31 日）

吉田 千草（明治大学）

新井 和之（成城大学）

齋藤 雅彦（専修大学）

研究部担当理事校 桜美林大学

第 1 回 2015 年 4 月 10 日（金）15：00～16：50 於：桜美林大学

1. 2014 年度研究部決算報告について
2. 2015 年度研究部予算（案）について
3. 2015 年度研究部活動計画（案）について
4. 特別助成金申請について
5. 2014 年度研究分科会活動報告について
6. 2014 年度研究分科会会計報告について
7. 2014-2015 年度研究分科会刊行物一覧について
8. 2015 年度第 1 回運営委員・研究分科会代表者合同会議について
9. 2015 年度部会総会について
10. 研究分科会マニュアル 2015 年度版（案）について
11. 2015 年度研究部運営委員会日程及び協会スケジュールについて
12. その他

第 2 回 2015 年 5 月 15 日（金）13：00～14：30 於：桜美林大学

1. 2015 年度第 1 回運営委員・研究分科会代表者合同会議について
2. 2015 年度研究分科会予算計画について
3. 2015 年度東地区部会総会・館長会・研究講演会について
4. 2015 年度研究部予算（案）について
5. その他

第 3 回 2013 年 6 月 14 日（土）12:00～12:30 於：東北学院大学

1. 研究講演会最終打ち合わせについて
2. 2015 年度研究分科会報告大会の実施スケジュールについて

### 3. その他

第4回 2015年7月10日(金) 14:00~17:00 於:慶応義塾大学

1. 2015年度研究分科会報告大会について
2. 2015年度研究分科会夏期合宿(集中研究会)実施計画について
3. 新規研究分科会受付募集の案内について
4. 2016/2017年度研究分科会会員募集について
5. 大学図書館員スキルアップコース(仮)について
6. その他

第5回 2015年10月2日(金) 15:00 ~ 17:00 於:文化学園大学

1. 2015年度研究分科会報告大会について
2. 2015年度第2回運営委員・研究分科会代表者合同会議開催について
3. 新規分科会受付募集について
4. その他

第6回 2015年11月13日(金) 13:00~14:30 於:学習院大学

1. 2015年度第2回運営委員・研究分科会代表者合同会議について
2. 夏期研究合宿(集中研究会)実施報告について
3. 2015年度研究分科会報告大会について
4. 新規研究分科会受付募集の中間報告について
5. 2016/2017年度研究分科会会員募集の中間報告について
6. 2015年度研究分科会報告大会の運営について
7. 2015年度研究講演会の講師と演題について
8. 2016年度以降の研修委託業務(案)について
9. その他

第7回 2015年12月11日(金) 11:30~12:00 於:明治大学

1. 2015年度研究部予算執行状況について
2. 2016年度研究部活動計画(案)について
3. 2016年度研究部予算(案)について
4. 新規研究分科会受付募集について
5. 2016/2017年度研究分科会会員募集について
6. 2016年度研究講演会の講師と演題について
7. 2016年度研修分科会会員募集について
8. その他

第8回 2015年3月11日(金) 14:30 ~ 17:00 於:成城大学

1. 2015年度研究分科会報告大会参加状況及び研究分科会への意見・感想等の集計結果について
2. 2016/2017年度研究分科会会員参加申込状況について



3. 2016 年度研修分科会会員参加者申込状況について
4. 2015 年度研究部活動報告及び中間決算について
5. 2016 年度研究部活動計画（案）及び予算（案）について
6. 2015 年度研修委員会活動報告について
7. 次期研修委員（2016/2017 年度）について
8. 2016 年度研究部運営委員会日程（案）について
9. 2016 年度研究講演会の講師と演題（案）について
10. 2015 年度東地区部会役員会（第 2 回）について
11. 2016 年度私立大学図書館協会スケジュール（案）について
12. 研修会の隔年開催について
13. その他

## 2. 運営委員・研究分科会代表者合同会議

第 1 回 2015 年 5 月 17 日（金）15:00～17:00 於：桜美林大学

1. 2015 年度研究部活動計画（案）及び予算（案）について
2. 2015 年度研究分科会活動計画（案）について
3. 2015 年度研究分科会報告大会について
4. 研究分科会マニュアル 2015 年度版について
5. 分科会関連業務分担について
6. 協会ホームページについて
7. 2015 年度私立大学図書館協会スケジュールについて
8. 2016-2017 年度研究分科会会員更新スケジュールについて
9. 運営上の諸問題について
10. その他

第 2 回 2015 年 11 月 13 日（金）15:00～17:00 於：学習院大学

1. 夏期研究合宿（集中研究会）実施報告について
2. 2015 年度研究分科会報告大会について
3. 新規研究分科会受付募集の中間報告について
4. 2016/2017 年度研究分科会会員募集の中間報告について
5. 研究分科会会計処理及び助成金の改定について
6. 運営上の諸問題について
7. その他

## 3. 研究会

2015 年度研究分科会報告大会

日 時：2015 年 12 月 11 日（金）9:40～16:55

場 所：明治大学 和泉キャンパス 和泉図書館ホール

参加数：44 大学 64 名

研究発表：

分類研究分科会（9:40～10:25）

テーマ：日本十進分類法新訂 10 版の変更点とその評価

発表者：藤倉 恵一（文教大学）

西洋古版本研究分科会（10:35～11:20）

テーマ：他大学協働型のスキル継承のあり方～西洋古版本を扱うための知識をより多くの図書館員に知ってもらおうということ～

発表者：ティムソン ジョウナス（早稲田大学） 宮原 柔太郎（日本体育大学）

和漢古典籍研究分科会（12:35～13:20）

テーマ：古典籍目録作成の情報源 ～署名・巻数の処理～

発表者：松下 賢（駒澤大学） 高島 みなみ（成城大学）

田中 麻巳（立正大学） 堀 はな恵（鶴見大学）

パブリック・サービス研究分科会（13:30～14:15）

テーマ：大学図書館員のつくるフリーペーパーの発行～これからのパブリックサービスを求めて

発表者：太田 潤（明星大学） 佐藤 威洋（獨協大学）

長谷川千枝（中央大学） 古庄 もも（国立音楽大学）

山之内義治（芝浦工業大学） 山本美智恵（日本体育大学）

企画広報研究分科会（14:25～15:10）

テーマ：大学図書館の SNS 活用の調査：（SNS による広報の現在と未来）

発表者：曾野 正士（明治大学） 飯泉 慎也（専修大学）

加藤 庸介（文化学園大学） 藤岡 梨紗（立教大学）

レファレンス研究分科会（15:20～16:05）

テーマ：レファレンス技術論：今必要な技術って何？

発表者：鈴木 学（日本女子大学） 伊藤 史織（大正大学）

長谷川敦史（早稲田大学）

研修分科会（16:15～17:00）

テーマ：2015 年度研修成果報告

発表者：尾形 沙由美（聖マリアンナ医科大学） 畠山 祥吾（東京都市大学）

加畑 奈緒（明治学院大学）

見 学 明治大学和泉図書館

#### 4. 研修委員会

研修委員（任期 2014 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日）

委員長 伊能 秀明（明治大学）

委員 鈴木 努（早稲田大学）

植苗 翔（中央大学）

粕川 悠介（成城大学）

酒見 佳代（慶應義塾大学）

三上 彰（桜美林大学）

オブザーバー 山田 雅子（慶應義塾大学）

第1回 2013年4月21日(火) 14:30~16:30 於:成城大学

1. 研修会テーマについて
2. 研修会講師候補者について
3. その他

第2回 2013年5月27日(水) 14:30~16:30 於:成城大学

1. 研修会テーマについて
2. 研修会講師候補者について
3. その他

第3回 2015年6月24日(水) 14:00~17:00 於:成城大学

1. 研修会テーマについて
2. 研修会講師候補者について
3. 研修会ワークショップについて
4. その他

第4回 2015年7月29日(水) 14:00~17:00 於:桜美林大学

1. 研修会テーマ・開催案内通知について
2. 研修会ワークショップについて
3. 研修会予算について
4. その他

第5回 2015年9月29日(月) 9:30~12:00 於:成城大学

1. 2015年度研修会の運営・準備等について
2. 2015年度研修会のワークショップについて
3. その他

第6回 2015年10月13日(火) 9:30~14:00 於:成城大学

1. 2015年度研修会の運営・準備等について
2. 2015年度研修会のワークショップについて
3. その他

第7回 2015年10月29日(木) 9:30~16:00 於:成城大学

1. 2015年度研修会の運営・準備等について
2. 2015年度研修会のワークショップについて
3. その他

第8回 2015年12月8日(火) 14:00~17:00 於:中央大学

1. 2015年度研修会の振り返りについて
2. 研修委員会規則の改正案について
3. その他

第9回 2016年3月28日(月) 14:00~17:00 於: 明治大学

1. 2014・2015年度委員、2016・2017年度委員 自己紹介
2. 研修委員会の概要および研修会について
3. 研修委員会予算(案)について
4. 研究部研修委員会規則の一部改正新旧対照表(案)について
5. 2016年度研修委員会の開催予定について
6. 次回研修委員会の日程・会場(案)について
7. その他

## 5. 研修会

期 日: 2015年11月4日(木) 5日(金)

場 所: 成城大学図書館

テーマ: 「大学の国際化と図書館英会話―“成城留学”で役立つ英語を学ぶ―」

第1日(11月4日)

講 演 「大学の国際化と図書館」

成城大学法学部教授 木畑 洋一氏

先進事例研究 1 「外国の図書館事情」

成城大学法学部教授 指宿 信氏

先進事例研究 2 「大学図書館英語対応事例」

明治大学中央図書館 久松 薫子氏

ワークショップ 1: 自己紹介とウォームアップ

早稲田大学アカデミックソリューション語学教育部 [WAS]

第2日(11月5日)

ワークショップ 2: ポスター作成

ワークショップ 3: 図書館イベントの案内作成

ワークショップ 4: カウンター応答

ワークショップ 5: 図書館ツアー

早稲田大学アカデミックソリューション語学教育部 [WAS]

## 6. 研究分科会

次の6研究分科会が、月例研究会・夏期研究合宿等の活動を実施した。

(2013年4月1日~2014年3月31日)

- |                     |                 |
|---------------------|-----------------|
| (1) 分類研究分科会         | (4) 企画広報研究分科会   |
| (2) パブリック・サービス研究分科会 | (5) 和漢古典籍研究分科会  |
| (3) 西洋古版本研究分科会      | (6) レファレンス研究分科会 |

休会: Lラーニング学習支援システム研究分科会

研究分科会月例担当理事校 白百合女子大学

研究分科会更新担当理事校 文化学園大学

## 7. 研修分科会

- |     |             |   |
|-----|-------------|---|
| 第1回 | 6月 26日 (金)  | 於：桜美林大学                                 |
| 第2回 | 7月 30日 (木)  | 於：白百合女子大学                               |
| 第3回 | 8月 17日 (月)  | 夏期図書館見学ツアー<br>(於：武蔵野美術大学・東京学芸大学・東京経済大学) |
| 第4回 | 10月 1日 (木)  | 於：東京都市大学                                |
| 第5回 | 11月 19日 (木) | 於：国立情報学研究所                              |
| 第6回 | 12月 10日 (木) | 於：神田外語大学                                |

## 《2015 年度研究分科会活動報告》

### 1. 分類研究分科会

代表者：藤倉 恵一（文教大学）

会員数：7名（正会員5名，個人会員2名）

会 員：川上 勝慎（獨協大学）	鈴木 学（日本女子大学）
藤倉 恵一（文教大学）	以上正会員
荒井 邦子（東京慈恵会医科大学）	村上 明子（桐蔭横浜大学）
	以上正 ML 会員
小林 美佐（昭和女子大学）	田中 環（文化学園大学）
	以上個人 ML 会員

年会費：なし

例会開催回数：11回（合宿1回含む）

延べ参加者数：61名

研究分科会ホームページ URL：<http://www.jaspul.org/pre/e-kenkyu/bunrui/>

#### 活動

##### 1) 基本テーマ

件名，シソーラス，Indexing 理論等を含んだ“トータル”な意味での図書館分類法とその理論に関する研究を基本テーマとする。

今期は，過去3期の研究を継承し，現在日本図書館協会分類委員会から会期中に刊行予定の『日本十進分類法（NDC）』新訂10版について検証と評価，および必要な提言をすることをメインテーマとし，「日本十進分類法新訂10版の「つかい方」をさぐる」とする。また，そのために必要な理論的基盤の研究についても並行して行う。

##### 2) 活動の概要

分類研究分科会は2年間を(1) 研究テーマに沿った文献の精読を通じて参加会員の基礎レベルを整える，(2) 主たる研究テーマの研究・検証を行う，(3) 研究成果の発表および総括 の3つの期間に分けて活動する。

2015年度は第1期の継続と，第2期の検証を中心に活動を行う。

#### 2. 1) 第1期 図書館分類法理論の基礎

第1期の活動として，図書館分類法を理論的かつ体系的に学ぶ基本文献であるミルズ『現代図書館分類法概論』精読を継続した。同書はこれまでも何度か当会の課題図書として取り上げているが，時間をかけて丹念に読み，理解を深めることを今回の目標とした。

- ・ J.ミルズ著；山田常雄訳. 現代図書館分類法概論. 日本図書館研究会，紀伊国屋書店（発売），1982, viii, 193p.

#### 2. 2) 第2期 NDC 新訂10版の検証

第1期の精読に時間をかけたこと，NDC10版の刊行が会期当初の見込みよりも若干遅れたことと相まって，検証のポイントを(1) 報告文献の確認 (2) 主として外見に関する確認 (3) 主として内容に関する確認 の3項に絞った。

このうち(1)(2)は分類委員が各誌に載せたものを検証した。

- ・ 那須雅熙. 『日本十進分類法（NDC）新訂10版』の刊行によせて. 図書館雑誌. 2015,

109(2), p.96-97.

- ・ 藤倉恵一. 『日本十進分類法 (NDC)』新訂 10 版のあとさき. 現代の図書館. 2015, 53(1), p.39-46.
  - ・ 大曲俊雄. NDC10 版の変わったところ. 専門図書館. 2015, (272), p.32-36.
  - ・ 高橋良平. 『日本十進分類法』新訂 10 版の概要. カレントアウェアネス. 2015, (324), p.11-14.
  - ・ 藤倉恵一. 日本十進分類法 (NDC) 新訂 10 版を概観する. 大学図書館問題研究会誌. 2015, (40), p.11-24.
- (3)は加えて試案説明会後に発表された論文と過去の意見書を確認しながら「各類概説」「使用法」「用語解説」を検証することで実施した。
- ・ 米谷優子, 川瀬綾子, 北克一. 日本十進分類法新訂 10 版試案の検討. 情報学. 2014, 11(1), p.44-50.

## 2. 3) 第 3 期 研究のまとめと発表

今期は第 2 期に割いた時間は少なかったが、「過去のまとめと 10 版の検証」という視点で課題を整理した。そしてこの発表の場は、定例の研究報告大会以降だけではなく、全国図書館大会の分科会もこれに含まれた（後述）。

## 2. 4) 会場記録および活動概要

- 2015 年 4 月 17 日 (金) 文教大学 (越谷)
- 1) 『現代図書館分類法概論』精読
  - 2) 分科会 60 周年について
- 5 月 8 日 (金) 獨協大学
- 1) 『現代図書館分類法概論』精読
  - 2) 夏期研究合宿について
  - 3) 分科会 60 周年について
- 6 月 19 日 (金) 福祉センター江戸川橋 (東京都文京区)
- 1) 『現代図書館分類法概論』精読
  - 2) NDC10 版の検討について
  - 3) 分科会 60 周年について
- 7 月 17 日 (金) アカデミー向丘 (東京都文京区)
- 1) NDC10 版検討
  - 2) 夏期研究合宿について
  - 3) 全国図書館大会について
- 9 月 1 日 (火) ~ 3 日 (木) 高尾山わくわくビレッジ (東京都八王子市)
- 1) NDC10 版検討
- 9 月 18 日 (金) 獨協大学
- 1) NDC10 版検討
  - 2) 全国図書館大会について
- 10 月 16 日 (金) 国立オリンピック記念青少年総合センター (東京都渋谷区)
- 1) 全国図書館大会第 16 分科会「分類法と図書館 1」参加
  - 2) 全国図書館大会第 17 分科会「分類法と図書館 2」共催・発表
  - 3) 設立 60 周年記念祝賀会
- 11 月 20 日 (金) 東京慈恵会医科大学 (国領)
- 1) NDC10 版検討
  - 2) 研究報告大会について
  - 3) 60 周年記念論集について

12月4日(金) アットビジネスセンター池袋駅前本館(東京都豊島区)

- 1) 研究報告大会について
- 2) 60周年記念論集について

2016年 2月19日(金) 東京慈恵会医科大学(西新橋)

- 1) 研究報告大会について(総括)
- 2) 意見書について(報告)
- 3) 60周年記念論集について

3月10日(木) 日本女子大学(目白)

- 1) 意見書について
- 2) 60周年記念論集について
- 3) 今期の総括

## 資料

### 1) 刊行物

分科会設立60周年を記念して、記念誌『分類研究分科会の60年、NDCへのこの10年』を刊行した。

### 2) 事業

#### ア. 分類研究分科会設立60周年記念事業

2015年12月で、分科会は設立60年を迎えた。50周年の際に記念誌を発行する予定が頓挫したこともあり、今回は記念誌の発行と、記念集会・祝賀会の開催を計画した。

記念集会は、10月15・16日に開催される第101回全国図書館大会(東京大会)の分科会開催をもって充てることとした(分科会は16日)。

同日午前中の第16分科会「分類法と図書館1 NDC10版から拓がる①:改訂ポイントと展望」は分類委員会が主催し、主に10版の改訂について報告や、書誌作成機関・大規模図書館での適用などをめぐり報告があった。その流れを受けて午後の第17分科会「分類法と図書館2 NDC10版から拓がる②:図書館分類の地平」を分類研究分科会と分類委員会で共催し、10版の評価や課題をパネルディスカッション形式で展開した。

#### イ. TP&Dフォーラム2015(第25回整理技術・情報管理等研究集会)の共催

1991年に日本図書館研究会整理技術研究グループ(現・情報組織化研究グループ)により始められたTP&Dフォーラムは、第2回から分類研究分科会が共催者となり運営に参画してきた。2015年度は浜松で開催され、分科会からは藤倉・川上・鈴木・村上・小林の5名が出席した。

フォーラムの参加者は教員、図書館員、データベース業者などさまざまであり、これに分科会が参加・関与することの利点は(1)主題組織分野における最新の研究動向の把握、(2)分野を同じくする教員や研究者との交流、(3)この分野の研究基盤継承への貢献であるといえる。なお、2016年度は8月27・28日に横浜にて開催される予定である。

#### ウ. 日本図書館協会分類委員会への参画

2007年度より、分類研究分科会を代表して藤倉がNDCの編纂に携わっている。これによって、分類研究分科会での研究成果を多少なりともNDCの編纂に役立てることができ、逆に最新の動向を分科会に持ち帰ることができる。

10版が刊行されたことで内容に対する提言は一段落したが、今後は次版以降を見据えた提言が必要となる。今次意見書はそれを踏まえたものとし、今後も提出は続けていきたいと考えている。  
(文責・藤倉恵一)



## 2. 西洋古版本研究分科会

**代表者**：ティムソン ジョウナス（早稲田大学）

**会員数**：8名

**会 員**：山田裕之（多摩美術大学）

井形恵美子（駒澤大学）

児玉千尋（成蹊大学）

杉山友美（関東学院大学）

寺島久美（鶴見大学）

宮原柔太郎（日本体育大学）

（中央大学）

**年会費**：なし

**例会開催回数**：11回（今期は夏期集中研究会の実施はなし）

**延べ参加者数**：83名

**研究分科会ホームページURL**：[http://www.jaspul.org/pre/e-kenkyu/early\\_p\\_book/](http://www.jaspul.org/pre/e-kenkyu/early_p_book/)

### 活動

#### （1）基本テーマ

- ① 西洋古版本に関する書誌作成技術の習得
- ② 図書館で西洋古版本を扱う際に必要な知識の習得(取扱い方法、管理方法など)

#### （2）活動の概要

西洋古版本に関する文献の講読や多数の識者の講義や指導を受け、基本的な理解を深める。また、会員の所属機関が所蔵する西洋古版本を用いての資料整理・書誌作成の実践にも取り組むほか、西洋古版本の業務にあたっている図書館関係者が、恒常的にノウハウを習得することが可能なウェブサイトの作成に取り組む。

### 資料

#### （1）月例会テーマ

4月例会：4月30日(木) 慶應義塾大学研究室棟 参加者7名

- ① 書誌学関連の文献輪読ならびに慶應義塾大学名誉教授高宮利行先生による講義
- ② 研究発表課題について検討

5月例会：5月22日(金) 印刷博物館、雄松堂書店ゲスナーライブラリー 参加者8名

- ① ヴァチカン教皇庁図書館展の見学および慶應義塾大学名誉教授高宮先生の解説
- ② 雄松堂書店ゲスナーライブラリーにて慶應義塾大学名誉教授高宮先生の講義

6月例会：6月23日(火) 中央大学多摩キャンパス中央図書館 参加者8名

- ① 研究発表テーマの策定(ウェブサイト作成)
- ② 研究発表に向けての今後の活動計画について
- ③ 館内見学

7月例会：7月16日(水) 日本体育大学世田谷キャンパス図書館本館 参加者8名

- ① ウェブサイト作成用の各自の担当業務進捗の報告
- ② 館内見学

9月例会：9月15日(水) 多摩美術大学八王子キャンパス八王子図書館 参加者8名

- ① ウェブサイト作成用の各自の担当業務進捗の報告
- ② 館内見学

10月例会：10月23日(金) 駒沢大学図書館 参加者8名

- ① 研究発表に向けたプレゼン資料作成
- ② 館内見学

11月例会：11月26日(木) 成蹊大学図書館 参加者7名

- ① ウェブサイト作成作業
- ② 館内見学

12月例会：12月3日(木) 関東学院大学金沢八景キャンパス図書館本館 参加者7名

- ① 12月研究報告大会に向けての最終確認(リハーサル)
- ② 館内見学

1月例会：1月18日(月) 製本修復家岡本幸治先生個人工房 参加者6名

- ① 製本修復家岡本幸治先生による講義(製本、書物の修復方法について)

3月例会(第一回)：3月8日(火) 鶴見大学図書館 参加者8名

- ① ウェブサイト用の動画・写真等の撮影作業
- ② 館内見学

3月例会(第二回)：3月15日(火) 鶴見大学図書館 参加者8名

- ① 元・跡見学園所大学教授高野彰先生による講義(古書目録の読み方)
- ② 事務連絡(4月例会、2016年度活動計画)

## (2) 刊行物及び事業

特になし

### 3. 和漢古典籍研究分科会

**代表者**：松下 賢（駒澤大学）

**会員数**：4名、講師1名

**会 員**：松下 賢（駒澤大学） 高島 みなみ（成城大学）  
堀 はな恵（鶴見大学） 田中 麻巳（立正大学）  
高橋 良政講師（元日本大学）

**年会費**：2,000円

**例会開催回数**：10回（夏季集中研究会含む）

**延べ参加者数**：55名

**研究分科会ホームページ URL**：<http://www.jaspul.org/pre/e-kenkyu/kotenseki/>

#### 活動

##### （1）基本テーマ

日本や中国・朝鮮半島などで刊行された古典籍資料について、大学図書館職員として必要な書誌学の基礎知識・書誌作成方法を習得することを目指している。会員所属図書館蔵の和漢古典籍を使って、情報源に対する的確な理解、装訂に関する知識、紙質や字様・分類についての考証、刊印修の分別などととも、書誌事項の適切な表記の仕方までを演習形式で学ぶ。

##### （2）活動の概要

- ・ 研究報告大会に向け、研究テーマ「古典籍目録作成の情報源-書名・巻数の処理-」を設定し、研究者の調査・大学図書館アンケートをもとに、古典籍目録作成に際しての提案を試みた。
- ・ 会場校が所蔵する古典籍資料について、講師の指導を受けながら調書を作成した。

#### 資料

##### （1）月例会テーマ

第1回月例会

日 程：2015年4月28日(火)

会 場：成城大学図書館

参加者：5名

- ・ 2015年度活動計画・予算計画について
- ・ 研究報告大会準備
  - アンケートについて
  - 研究者・団体が採用している目録規則について
  - 対象資料の選定について
- ・ 調書作成

第2回月例会

日 程：2015年5月26日(火)

場 所：鶴見大学図書館

参加者：5名

- ・代表者会議報告
- ・研究報告大会準備
- ・調書作成

#### 第3回月例会

日 程：2015年6月23日(火)

場 所：立正大学情報メディアセンター

参加者：5名

- ・夏季集中研究会について
- ・研究報告大会準備
- ・調書作成

#### 第4回月例会

日 程：2015年7月21日(火)

場 所：駒澤大学図書館

参加者：5名

- ・夏季集中研究会について
- ・研究報告大会準備
  - 研究者・団体が採用している目録規則報告
  - アンケート状況について
- ・調書作成

#### 夏季集中研究会

日 程：2015年8月19日(水)・20日(木)

場 所：成城大学図書館

参加者：10名(5名×2日間)

- ・研究報告大会準備
  - アンケート取りまとめ
  - 報告用ppt作成

#### 第5回月例会

日 程：2015年9月29日(火)

場 所：立正大学情報メディアセンター

参加者：5名

- ・研究報告大会準備
  - 報告用ppt作成
  - 各種提出書類の確認

#### 第6回月例会

日 程：2015年10月27日(火)

場 所：鶴見大学図書館

参加者：5名

- ・研究報告大会準備
  - 報告用ppt作成

#### 第7回月例会

日 程：2015年11月24日(火)

場 所：駒澤大学図書館

参加者：5名

- ・代表者会議報告
- ・研究報告大会準備
- 報告用 ppt 完成

#### 第8回月例会

日 程：2016年1月26日(火)

場 所：成城大学図書館

参加者：5名

- ・研究報告大会振り返り
- ・次期活動に向けて
- ・調書作成

#### 第9回月例会

日 程：2015年3月1日(火)

場 所：鶴見大学図書館

参加者：5名

- ・次期分科会についての検討
- ・研究報告大会振り返り
- ・『会報』原稿作成

## (2) 刊行物及び事業

なし

#### 4. パブリック・サービス研究分科会

**代表者：**太田 潤（明星大学）

**会員数：**6校6名

**会 員：**佐藤 威洋（獨協大学）

長谷川 千枝（中央大学）

古庄 もも（国立音楽大学）

山之内 義治（芝浦工業大学）

山本 美智恵（日本体育大学）

太田 潤（明星大学）

**年会費：**4,000円（正会員）

**例会開催回数：**12回（夏期集中研究会含む）

**延べ参加者数：**70人

**研究分科会ホームページURL：**<http://www.jaspul.org/pre/e-kenkyu/public/>

#### 活動

##### （1）基本テーマ

大学図書館の新しい利用者サービスを考える。大学図書館員の役割を「人・資料・場を結びつけるコーディネーターとしての図書館員」と設定し、その実践として大学図書館をテーマにしたフリーペーパーの企画、発行を行う。

##### （2）活動の概要

2014年度に大学図書館員が発行するフリーペーパーを発案した。誌名を『P.S. Enjoy Library!』とし、2015年度はこの作成ならびに発行を行った。4月にスケジュールと予算計画をたて、特別助成を申請して承認された。5月～8月に取材を行い、9月～10月に作成ならびに印刷をおこなった。9500部作成し、11月の図書館総合展から配布を開始した。その他、総合展の来場者へ設置を呼びかけたり私立大学図書館協会の研究報告大会などで設置希望の大学を募るなどした。会員の所属大学でも設置ならびに配布した。

12月以降は、フリーペーパーの発送等の事務作業を行いながら、様々な観点から図書館サービスを見つめ直すため、話題の大学図書館や公共図書館の見学や情報交換会を行った。

#### 資料

##### （1）月例会テーマ

**4月例会：**4月22日（水）13：00～17：00 中央大学（多摩キャンパス）

- ① フリーペーパー：企画打合せ（予算、取材スケジュールの計画）

**5月例会：**5月29日（金）9：00～17：00 芝浦工業大学（豊洲キャンパス）他

- ① フリーペーパー：学生取材（於日本体育大学）
- ② フリーペーパー：企画打合せ・学生教職員取材（於芝浦工業大学）

**6月例会**：6月17日（水）9：00～17：00 獨協大学他

- ① フリーペーパー：学生取材（帝京大学、中央大学）
- ② フリーペーパー：学生団体取材（於獨協大学）

**7月例会**：7月22日（水）9：00～17：00 新潮社他

- ① フリーペーパー：学生取材（於国立音楽大学、中央大学）
- ② フリーペーパー：作家取材（於新潮社）

**8月例会**：8月24日（月）9：30～17：00 東京堂書店他

- ① フリーペーパー：書店取材（於東京堂書店）
- ② フリーペーパー誌面構成打合せ

**夏期集中研究会**：9月8日（火）～10日（木） 日本体育大学

- ① フリーペーパー原稿作成
- ② フリーペーパー印刷打合せ
- ③ 図書館総合展準備

**10月例会**：10月13日（火）10：00～17：00 中央大学（多摩キャンパス）

- ① フリーペーパー校正
- ② 図書館総合展準備

**11月例会(1)**：11月10日（火）～12日（木）10：00～18：00 パシフィコ横浜

- ① 第17回図書館総合展ポスターセッション出展
- ② フリーペーパー配布

**11月例会(2)**：11月19日（木）13：00～17：00 芝浦工業大学（豊洲キャンパス）

- ① フリーペーパー発送作業
- ② 研究報告大会準備

**1月例会**：1月21日（木）10：00～17：00 千代田図書館、国立国会図書館

- ① 千代田図書館見学
- ② 国立国会図書館見学

**2月例会**：2月25日（木）13：00～17：00 国立音楽大学

- ① 国立音楽大学附属図書館見学
- ② 2015年度活動まとめ（会計報告、活動報告の確認ならびに会報原稿の作成）

**3月例会**：3月11日（金）10：00～17：00 武蔵野プレイス、成蹊大学図書館

- ① 武蔵野プレイス見学
- ② 成蹊大学図書館見学、情報交換会

## (2) 刊行物及び事業

フリーペーパー『P.S. Enjoy Library!』2015年11月刊行, 9500部



## 5. 企画広報研究分科会

**代表者**：曾野 正士（明治大学）

**会員数**：4名（正会員4名）

**会 員**：飯泉 慎也（専修大学／正会員）  
加藤 庸介（文化学園大学／正会員）  
藤岡 梨紗（立教大学／正会員）  
曾野 正士（明治大学／正会員）

**例会開催回数**：11回（夏期集中研究会含む）

**延べ参加者数**：44人

**研究分科会ホームページURL**：<http://www.jaspul.org/pre/e-kenkyu/kikaku/index.htm>

### 活動

#### 1) 基本テーマ

グローバル化や地域連携等、大学を取り巻く環境が多様化していく中で、図書館は学習・研究活動の中心拠点であることを維持し続けなければならない。図書館員に求められる資質が変わりつつある中で、効果的な企画広報力を養っていくにはどうすればよいのか。利用者の心に響くような方策を企画広報の形で実現し、大学図書館全体の利用率向上を目指す。

#### 2) 活動の概要

今期は最新の広報事例を調査し、図書館における企画広報の課題を探っていくことから始めた。今期後半は、「図書館に來ない学生を來る学生に変える」方策として SNS に着目した。広報手段として既に SNS を活用している大学図書館は数多いが、本当に伝えたい情報が学生に届いているかは議論が分かれる。各図書館で運用されている Twitter や Facebook を一つ一つ検証し、本当に学生に伝わる方法を模索した。

### 資料

#### 1) 月例会テーマ

**4月例会**：日程：4月24日（金）13：00～17：00

場所：大正大学 5号館2階 524教室

学生向けアンケートまとめ

・集計済アンケートのまとめと考察

**5月例会**：日程：5月22日（金）13：00～17：00

場所：立教大学 マキムホール 10F 第2会議室

学生向けアンケートまとめ

・集計済アンケートのまとめと考察

**6月例会**：日程：6月19日（金）13：00～17：00

場所：明治大学 中央図書館 資料室

学生向けアンケートまとめ

・集計済アンケートのまとめと考察

**7月例会：** 日程：7月10日（金）13：00～17：00  
場所：専修大学 神田5号館ラーニング・コモンズ スタディラウンジ2  
先行研究の確認  
・関連論文の精読

**夏期集中研究会：**  
日程：8月28日（金）  
場所：明治大学 中央図書館 資料室  
各大学図書館のSNS活用度の計測  
・私立大学図書館 Facebook、twitter 公式アカウントの集計作業

**9月例会：** 日程：9月28日（月）13：00～17：00  
場所：文化学園大学 図書館 作業室  
SNSの集計  
・集計結果の分析・考察

**10月例会：** 日程：10月23日（金）13：00～17：00  
場所：立教大学図書館 打合せ室  
報告大会向け発表資料の作成  
・報告内容の検討

**11月例会：** 日程：11月9日（月）13：00～17：00  
場所：明治大学 中央図書館 資料室  
報告大会向け発表資料の作成  
・配布用レジメの作成

**12月例会：** 日程：12月7日（月）13：00～17：00  
場所：専修大学 神田5号館ラーニング・コモンズ スタディラウンジ2  
報告大会向け発表資料の作成  
・発表用スライドの作成

**研究報告大会：** 日程：12月11日（金）14：20～15：05  
場所：明治大学 和泉図書館

**1月例会：** 日程：1月12日（火）13：00～17：00  
場所：文化学園大学 図書館 作業室  
研究報告大会総括  
・研究報告大会総括

**3月例会：** 日程：3月10日（木）13：00～17：00  
場所：立教大学 12号館第3会議室  
・次期研究分科会への引継ぎ内容確認

## 2) 刊行物及び事業

特になし

## 6. レファレンス研究分科会

代表者：鈴木 学(日本女子大学)

会員数：3名

会 員：伊藤 史織(大正大学)，鈴木 学(日本女子大学)，長谷川 敦史(早稲田大学)

年会費：なし

例会開催回数：10回(内訳：月例会9回、夏期集中研究会)

延べ参加者数：30名

研究分科会ホームページURL：<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/reference/>

### 活動

#### (1)基本テーマ

研究テーマ「レファレンス技術論：今必要な技術って何？」

今後レファレンス担当者には、ICTを活用できる能力も必要とされる。今期はICTそれぞれの具体的な技術を確認しながら、図書館から利用者へICTを活用して何が可能となるのかを議論する。そして、利用者に便利であり、かつ図書館がガイドできる技術とは何か、さらには、ICTを介して図書館サービスにどのような展開があるのかを探る。それらの議論を通して図書館活動とICTとの有機的なつながりについて考察する。ICT技能の習得も目指したい。

#### (2)活動の概要

会期2年目では、分科会活動のための基盤整備に重点を置いた1年目を経て、年度を通してメインテーマに取り組んだ。

##### ○月例会

2年目は、今期の課題に集中する期間でもあるため、月例会を原則毎週第3水曜日に開催することとした。

年度初めの数回は、1年目で終わることができなかった課題図書を終了させることと、分科会会期当初に行った今期の研究テーマについて共有した打合せ内容を思い出しながら、その内容について精査や再確認を繰り返した。夏期集中研究会で大まかに研究内容をまとめることができるように確認することとした。

##### ○夏期集中研究会

今年度は会員及び会場の都合により合宿を行わず、2日に分けての集中研究会の開催となった。今回の2日間では、今期分科会の研究テーマに集中することとし、目標として、レファレンス・デスクを挟んだ図書館員と利用者のつながりを図の中心に位置づけて、レファレンス・サービスにつながる様々なトピックを列挙しながらその周囲に配置し、レファレンス業務の俯瞰図を作ることにした。

手法として、トピックの列挙にあたってはブレイン・ストーミングの手法を取り入れ、各自が思いつくままにトピックとなりそうなキーワードを挙げた。列挙されたトピックの分析にはKJ法を用い、トピック同士の関係性について討議。トピックのグルーピングを行い、項目としてとりまとめていった。

項目にまとめられたトピックの過不足を確認しながら、次には項目間の関係性を討議し図の中心となる図書館と利用者の周囲に配置していった。その後で、レファレンス・サービスとして展開できるトピックとできないトピックとを切り分け、できるトピックに焦点を当てて、そ

の実現の方法論を探るという考察を行った。

トピックをレファレンス・サービスとして取り上げる際には、そのトピックについて論考している文献、具体的には私大図協報告関連2誌掲載分の文献を中心として該当箇所を抽出し、それらに対処するトピックとなるかどうかを検証した。文献が見当たらないトピックであれば、上記2誌以外の関連文献も探索を行い、検証を行った。該当する文献がない場合にはそのトピックをオリジナルな視点として提案することとした。

#### ○9月～12月(報告大会)

集中研究会でとりまとめた内容を更に洗練するために考察を繰り返す。合わせて、報告大会に向けた準備を行う。

#### ○12月(報告大会)以降～会期末

今期の研究テーマのまとめに取り組む。また今期の活動の総括も行う。

## 資料

### (1)例会開催とテーマ [月日・会場・テーマ等]

#### ○月例会開催について(2015年度：2015年4月～2016年3月)

開催日(曜日)	会場(キャンパス名等)
4月22日(水)	福祉センター江戸川橋(文京区生涯学習・文化施設等) 地域活動室A
5月20日(水)	アカデミー向丘(文京区生涯学習・文化施設等) 学習室
6月24日(水)	福祉センター江戸川橋(文京区生涯学習・文化施設等) 地域活動室A
9月30日(水)	福祉センター江戸川橋(文京区生涯学習・文化施設等) 地域活動室A
10月21日(水)	福祉センター江戸川橋(文京区生涯学習・文化施設等) 地域活動室A
11月18日(水)	アカデミー茗台(文京区生涯学習・文化施設等) 学習室A
12月9日(水)	早稲田大学(早稲田) 国際会議場4F 共同研究室2
1月27日(水)	大正大学(巣鴨) 7号館2F
3月5日(土)	日本女子大学(目白) 4階「泉ラーニング・スペース」

#### ○集中研究会開催について

開催日	2015年8月7日(金), 9月4日(金)
会場	アカデミー音羽(文京区生涯学習・文化施設等) 学習室A

#### ○施設見学について(任意参加)

開催日(曜日)	見学先機関
3月5日(土)	立教大学池袋図書館

#### ○課題文献

研究テーマの内容に関連する文献を取り上げる。具体的なタイトルは以下の通り。

#### 【書籍・報告書】

- ・ 私立大学図書館協会 レファレンス研究分科会2004～2005年分科会報告. 私立大学図書館協会東地区部会研究部レファレンス研究分科会, 2006.
- ・ 私立大学図書館協会会報 1981～2013. 私立大学図書館協会.
- ・ 私立大学図書館協会東地区部会研究部報告書 1981～2013.
- ・ 石黒 圭. 論文・レポートの基本：この1冊できちんと書ける! 日本実業出版社, 2012, 222p.
- ・ 伊藤 進. 「聞く力」を鍛える. 講談社, 2008, 205p.

- ・ 大串 夏身. インターネット時代のレファレンス : 実践・サービスの基本から展開まで. 日外アソシエーツ, 2010, 216p.
- ・ 片山 一行. すごい! 聞き方 : いつの間にか相手の心をつかむ. ダイヤモンド社, 2009, 221p.
- ・ 岸田 雅裕. コンサルティングの極意 : 論理や分析を超える「10の力」. 東洋経済新報社, 2015, 255p.
- ・ 齋藤 泰則. 利用者志向のレファレンスサービス: その原理と方法. 勉誠出版, 2009, 182p.
- ・ 白井 利明, 高橋 一郎. よくわかる卒論の書き方. 第2版, ミネルヴァ書房, 2013, 214p.
- ・ 戸田山 和久. 論文の教室 : レポートから卒論まで. 新版, NHK出版, 2012, 313p.
- ・ 内藤 誼人. 図解話のおもしろい人、へたな人の心理法則. PHP研究所, 2014, 158p.
- ・ 中村 万里, 永淵 道彦. 音声言語とコミュニケーション. 双文社出版, 2001, 159p.
- ・ 原田 智子ほか. 情報サービス演習. 樹村房, 2012, 213p.
- ・ 武藤 清栄. 傾聴力 : 話が通じない人とも話せる. 明日香出版社, 2010, 233p.
- ・ 山崎 久道ほか. 情報サービス論. 樹村房, 2012, 209p.
- ・ Phan,T., Hardesty,L., Hug,J. “Academic Libraries: 2012 First Look” .  
<http://nces.ed.gov/pubs2014/2014038.pdf>, (accessed 2015-12-02) .
- ・ Reference and User Services Association, A division of the American Library Association. “Guidelines for Implementing and Maintaining Virtual Reference Services” .  
<http://www.ala.org/rusa/sites/ala.org.rusa/files/content/resources/guidelines/virtual-reference-se.pdf>

#### 【論文】

- ・ 池谷 のぞみ. レファレンス・プロセス研究の諸アプローチとその統合: レファレンス・インタビュー研究を中心として. *Library and information science*. 1992, no.30, p.p43-58.
- ・ 伊藤 民雄. インターネットで文献検索+デジタル・レファレンスの現状. 館灯. 2004, vol.42, p.1-12.
- ・ 齋藤 泰則. 動向レビュー デジタルレファレンスサービスの特性と展開. カレントアウェアネス. 2003, no.275, p.10-13.
- ・ 齋藤 泰則. 学習支援としてのバーチャルレファレンス. メディア教育研究. 2011, vol.7, no.2, p.S32-S41.
- ・ 古橋 英枝. 日本の大学図書館におけるエンベディッド・ライブラリアンの導入可能性. 現代の図書館. 2014, vol.52, no.4, p.211-217.
- ・ 安井 裕美子. 日本の大学図書館におけるデジタルレファレンスサービス. 医学図書館. 2006, vol.53, no.1, p.48-54.
- ・ 安井 裕美子. 日本の大学図書館におけるデジタルレファレンスサービス: 質問紙法による調査結果とその分析. 大学図書館研究. 2004, vol.72, p.18-29.
- ・ 渡邊 真理子. 実施報告 デジタル・レファレンスサービスの可能性と今後の図書館像. 武蔵工業大学環境情報学部情報メディアセンタージャーナル. 2005, no.6, p.87-91.
- ・ 西尾 純子. 日本の専門図書館におけるデジタルレファレンスサービスに関する一考察 : 2000~2009年. 情報学. 2013, vol.10, no.2,

- ・ 依田 紀久. “チャットレファレンスにおける質問明確化の実態は?” . カレントアウェアネス-E. 2012年6月14日.
- ・ King Geraldine B. Open & Closed Questions: The Reference Interview. RQ. 1972, vol.12, no.2, p.157-160.
- ・ Radford,Marie L., Connaway,Lynn Silipigni, Confer,Patrick A., Sabolcsi-Boros,Susanna, Kwon,Hannah. "Are We Getting Warmer?" Query Clarification in Live Chat Virtual Reference. Reference & User Services Quarterly. 2011, vol.50, no.3, p.259-279.
- ・ Stevens,Christy R. Reference Reviewed and Re-Envisioned: Revamping Librarian and Desk-Centric Services with LibStARs and LibAnswers. The Journal of Academic Librarianship. 2013, vol.39, no.2, p.202-214.
- ・ Taylor Robert S. Question-negotiation and information seeking in libraries. College & Research Libraries. 1968, vol.29, no.3, p.178-194.
- ・ Yang S. Q., Dalal H. A. Delivering Virtual Reference Services on the Web: An Investigation into the Current Practice by Academic Libraries. Journal of Academic Librarianship. 2015, vol.41, no.1, p.68-86.

(2)刊行物及び事業

特になし。

以上

## 《2015 年度研修分科会報告》

代表者：佐々木 俊介（研究部担当理事校：桜美林大学）

会員数：17 名

会 員：加畑 奈緒（明治学院大学）	白石 裕俊（日本大学）
中村 祥子（城西大学）	畠山 祥吾（東京都市大学）
正木 さと子（学習院大学）	三浦 枝理（神田外語大学）
八木 彩香（中央大学）	山岸 誉人（法政大学）
相良 陽介（国立音楽大学）	尾形 沙由美（聖マリアンナ医科大学）
高崎 二未哉（大東文化大学）	坂本 沙織（大東文化大学）
八巻 豊史（文化学園大学）	辻 薫（明治大学大学）
牛込 敦孝（立教大学）	太田 萌（立教大学）
田中 杏里（立正大学）	

年会費：3,000 円

開催回数：6 回

延べ参加者数：128 名

研究分科会ホームページURL：<http://www.jaspul.org/pre/e-kenkyu/el-ken-b/>

### 活動

#### 1) 基本テーマ

専任の大学図書館職員に求められる基礎知識を学び、自ら探求する。

テーマは①マネージメント力 ②図書館のパフォーマンス向上。

アウトソーシング化が進み、図書館職員として現状を多角的に分析し、評価し、実現する能力が必要とされてきている。大学図書館の機能を根源から捉え、委託外注や電子化、学術情報流通、利用者サービス等について、広い視点で大学図書館の将来を考える。

#### 2) 活動の概要

研修は NPO 法人大学図書館支援機構の企画・運営で行い、研究部担当理事校が運営を管理する。各回とも、テーマに基づいた、事前学習・講演・グループ討議等を実施する。

### 資料

#### 1) 月例会テーマ

第 1 回 2015 年 6 月 26 日（金） 桜美林大学

講 演： ラーニングコモンズをめぐる学習環境デザイン  
（東北大学附属図書館：米澤 誠 氏）

見 学： 桜美林大学図書館

第2回 2015年7月30日(木) 白百合女子大学

課題: 模擬業務委託仕様書の作成

講演: 「受託の視点からみた図書館業務のマネジメント」

(株)図書館流通センター/長澤 正樹 氏

グループ討議: これからの図書館像

見学: 白百合女子大学図書館

第3回 2015年8月17日(月) 夏季見学ツアー

見学先: 武蔵野美術大学美術館・図書館

東京学芸大学附属図書館

東京経済大学図書館

第4回 2015年10月1日(木) 東京都市大学世田谷キャンパス

課題: 図書館オンサイトサービスと大学図書館の機能についてプレゼンテーション  
作成

講演: 機関リポジトリを知る(東京歯科大学:阿部 潤也 氏)

演習: 事前課題を1人4分でプレゼン発表

見学: 東京都市大学図書館

第5回 2015年11月19日(木) 国立情報学研究所

課題: 研修分科会中間報告

発表: 研修分科会中間報告発表

講演: NII 学術コンテンツ事業と大学図書館との連携・協力について  
(国立情報学研究所:細川 聖二 氏)

見学: 国立情報学研究所

第6回 2015年12月10日(木) 神田外語大学

課題: 「レファレンスによる現場力アップ」(大学図書館支援機構:寺尾 隆 氏)

演習: 事前課題の分析・検討～レファレンス事例シミュレーション

協同制作: グループワーク

見学: 神田外語大学図書館

2015年度研究報告大会

2015年12月11日(金) 明治大学泉図書館ホール

報告者: 聖マリアンナ医科大学医学情報センター 尾形 沙由美

東京都市大学世田谷キャンパス図書館 畠山 祥吾

明治学院大学図書館 加畑 奈緒

2) 刊行物及び事業

「いつでも図書館・どこでも図書館:非来館型サービス」

[http://www.jaspul.org/pre/e-kenkyu/el-ken-b/2015\\_product.pdf](http://www.jaspul.org/pre/e-kenkyu/el-ken-b/2015_product.pdf)



《研究分科会刊行物一覧》

分科会名	分類研究分科会	西洋古版本研究分科会	和漢古典籍研究分科会	パブリック・サービス研究分科会	企画広報研究分科会	レファレンス研究分科会
書名又は誌名	分類研究分科会の60年, NDCへのこの10年			P. S. Enjoy Library!		
刊行頻度	単行			2014-2015年度のみ		
価格	500			無料		
発行部数	300			9500部		
配布対象・頒布方法・在庫	分科会現旧会員・研究部関係者(2015年度) JLA会館への委託販売在庫は150部程度, 希望者に頒布			主な配布対象: 大学生  配布方法: 図書館総合展、研究報告会などで大学図書館をはじめとする設置者を募集。その他、会員各自が個別に設置を依頼。設置者が来館者その他へ配布。		
発行目的・主な内容	60周年記念活動記録総括 NDCへの提言まとめ (10版の刊行をひとつの節目として)			発行目的: 学生に大学図書館の魅力と読書の楽しさを伝えること、ならびに大学図書館の新たなサービスメニューとしての提案。  主な内容: ・学生への取材 ・作家インタビュー ・書店取材など。		
コメント・今後の刊行予定	発送は基本的に2016年度実施予定			今後の刊行は未定		

## 《2015 年度研究分科会月例会について（報告）》

研究部担当理事校 桜美林大学図書館 【2015 年度 4 月から担当】

月例会担当理事校 白百合女子大学図書館 【2015 年度 4 月から担当】

### 1. 月例会・夏期研究合宿開催状況(2016 年 3 月 1 日現予定含)

研究分科会名称	月例会 開催数	夏期合宿（集中研究会） 開催期間
分類 研究分科会	9	9 月 1 日～ 9 月 3 日 (合宿)
パブリック・サービス 研究分科会	10	9 月 8 日～ 9 月 10 日 (集中研究会)
西洋古版本 研究分科会	11	実施せず
企画広報 研究分科会	10	8 月 28 日 (集中研究会)
和漢古典籍 研究分科会	10	8 月 19 日・20 日 (集中研究会)
レファレンス 研究分科会	10	8 月 7 日・9 月 4 日 (集中研究会)

\* 夏期合宿・集中研究会内訳 (【】 は前年度)

夏期合宿 1 【2】、集中研究会 4 【4】、実施せず 1 【0】

### 2. 2015 年度中の動き

本年度の研究分科会は 6 研究分科会が活動し、休会は 1 研究分科会となった。

研究分科会の会員異動は 2 件(中途入会 1、退会 1)であった。各研究分科会の会員数は 3～8 名、月例会の回数は、それぞれ年間 9～11 回開催された。各研究分科会の会員数、1 年間の月例会回数は、ともに前年度とほぼ同数となった。夏期合宿(または集中研究会)は、5 研究分科会が実施し、研究成果の集大成となる報告大会に向け研究作業に集中した。

報告大会は 12 月 11 日に開催され、6 研究分科会が 2014-2015 年度の、1 研修分科会が 2015 年度の活動を報告した。報告大会への一般参加は 44 大学 64 名、他に NPO 法人大学図書館支援機構等、大学以外からも 4 名の参加があった。

各分科会の活動報告に対してアンケート回答には、積極的な評価・意見だけでなく、自館での導入の検討など前向きな意見が多く見られた。

### 3. 今後の課題

図書館は大学教育や研究活動の拠点であり、基盤である事は誰もが認める点ではあるが、大学を取り巻く状況は大きく変化しており大学図書館もその影響を強く受けている。

個々人は研究分科会への関心はあり参加の意欲も持っているが、職場内の異動等による人員不足で参加が難しい現状も一方ではある。また、地理的要因として東京近郊以外の大学図書館員は、参加へのハードルが高くなっていることも考えられる。それらは報告大会への参加者数にも反映しているだけでなく、研究分科会の参加者減少、あるいは研究分科会自体の存続にも大きな影響を与えている。

これからは研修分科会参加者が引き続き研究分科会でも活動が続けられるような連携や環境づくりなどの検討が必要となってきている。

## 《2016/2017 年度研究分科会・研修分科会会員の更新結果(報告)》

研究部担当理事校 桜美林大学図書館  
分科会更新担当理事校 文化学園大学図書館

### 1. 更新状況

(2016年3月31日現在)

分科会名	更新前		更新後		増減	備考
	参加人数	機関数	参加人数	機関数		
1 分類	7(5)	7	4(2)	4	▲3	
2 レファレンス	3(1)	3	3(3)	3	0	
3 パブリック・サービス	6(0)	6	0	0	▲6	
4 西洋古版本	8(4)	8	4(2)	4	▲4	
5 企画広報	5(0)	5	0	0	▲5	
6 和漢古典籍	5(0)	5	4(2)	4	▲1	
7 Lラーニング学習支援システム	0	0	0	0	0	2012/2013 および 2014/2015 年度休会
8 研修分科会(単年度更新)	18	16	13	12	▲5	

参加申し込み合計：27 機関、28 名 (それぞれ数は延数)

※第一次締め切り後、3月31日までに参加申し込みのあった2機関3名も含む(参加の可否決定は4月8日の最終締め切り後)。

※参加人数欄の( )内は継続会員数

### 2. 研究分科会会員更新経過

2015年

7月10日(金)

- ・第4回運営委員会で、2016/2017年度会員更新スケジュール、新規研究分科会受付募集について(ご案内)および記入上の注意、新規研究分科会申込書、新規研究分科会申込書FAX送信票、私立大学図書館協会東地区部会研究部分科会申し合わせについて確認を行った。

9月中旬に送付する「2016/2017年度研究分科会会員募集要項の原稿提出について(依頼)」(研究分科会代表者宛て)および「新規研究分科会受付募集の案内について(お願い)」(加盟大学図書館長宛て)については、いずれもEメールで発信、Eメールまたはファックスで受領という方法に統一することになった。

9月14日(月)

- ① 加盟大学図書館長宛「新規研究分科会受付募集の案内について(お願い)」をEメールにて送信。
- ② 研究分科会代表者宛「2016/2017年度研究分科会会員募集要項の原稿提出について(依頼)」および研修分科会代表者宛「2016年度研修分科会会員募集要項の原稿提出

について(依頼)」をEメールにて送信。※①、②とも提出期限は12月4日(金)

10月2日(金)

- ・第5回運営委員会で新規分科会受付募集について、更新担当校からメール送信をしたこと、現時点では応募なしと報告。

11月13日(金)

- ・第6回運営委員会で新規研究分科会応募状況(応募なし)と研究分科会会員募集要項の原稿提出状況(受領なし)を中間報告。
- ・第2回運営委員・研究分科会代表者合同会議で、新規研究分科会応募状況(応募なし)を報告。

12月4日(金)

- ・2016/2017年度研究分科会会員募集要項の原稿締め切り(6研究分科会、研修分科会より受領)。
- ・新規研究分科会応募締め切り(応募なし)。

12月11日(金)

- ・第7回運営委員会で、新規研究分科会の応募がなかったことを報告。  
各研究分科会の会員募集要項の確認。2分科会について、年会費を設定しているが、その根拠、必要性について確認したほうがよいとの意見があり、更新担当理事校から確認することになった。→その後確認し、2分科会とも年会費を設定しないことになった。

2016年

1月19日(火)

- ・研究分科会の会員更新書類として下記書類を加盟大学図書館長宛に送付し、次期会員募集を開始。

- ①「研究分科会会員の更新について(お願い)」
- ②「2016/2017年度 研究分科会参加申込書」(機関用・提出書類)
- ③「2016/2017年度 研究分科会参加申込書」(個人用・提出書類)
- ④「研究分科会会員募集に関する手引き」
- ⑤「2016/2017年度 研究分科会会員募集要項」(6分科会)

※第一次締め切り2月19日(金)、最終締め切り4月8日(金)

- ・研修分科会の会員更新書類として下記書類を加盟大学図書館長宛に送付し、次期会員募集を開始。

- ①「研修分科会会員の更新について(お願い)」
- ②「2016年度 研修分科会参加申込書」(機関用・提出書類)
- ③「2016年度 研修分科会参加申込書」(個人用・提出書類)
- ④「2016年度 研修分科会会員募集要項」

※第一次締め切り2月19日(金)、最終締め切り4月8日(金)

2月19日(金)

- ・一次締め切り。研究分科会12名、研修分科会13名の応募あり。

2月26日(金)

- ・各研究分科会および研修分科会代表者に、下記書類を郵送とメール添付で送付。  
①「2016/2017年度 研究分科会参加申込書(個人票)」

「2016 年度研修分科会参加申込書（個人票）」

②「研究（研修）分科会参加希望者承認の諾否、及びその通知について」

※諾否回答締め切り：メール 3 月 7 日（月）、郵送 3 月 10 日（木）

3 月 11 日（金）

- ・第 8 回運営委員会で、研究分科会および研修分科会の参加希望者名簿（第一次締め切り分）を提示。全員許諾されたことを報告。
- ・参加申し込み者が前期よりかなり少なく、成立条件を満たさない分科会も 2 つあったため、代表者に募集要項とは別に勧誘チラシ（図版やカラーを使用したもの）の作成および知り合いへの声掛けをしてもらうよう要請することにした。また、成立条件の会員数について再確認した。

3 月 29 日（火）

- ・研究分科会および研修分科会参加申込大学図書館長宛に、「2016/2017 年度研究分科会および 2016 年度研修分科会参加者中間報告（一次締め切り分）について（通知）」、「2016-17 年度研究分科会・2016 年度研修分科会参加者一覧（機関別）」を郵送にて送付。

3 月 29 日（火）

- ・加盟大学図書館長宛に、研究分科会および研修分科会の二次募集の通知を E メールにて送付。送付文書は 1 月 19 日の一次募集時と同じもの（パブリックサービス研究分科会募集要項は改訂版）に加え、研究分科会および研修分科会勧誘チラシ（企画広報研究分科会はなし）を送付。

### 3. 今後の課題等

今期の研究分科会の更新においては、3 月末時点で前期よりさらに参加希望人数が厳しいものになっている。2 分科会が定員に満たず、他の分科会も最低限の人数にとどまっている。

前期の研究部運営委員会で、分科会の成立条件会員数を複数館からの 3 名以上と申し合わせた（それまでは若干名）が、今期の第一次締め切り分において参加希望者が 2 名の分科会があり、申し合わせに従うと不成立になってしまう。第 8 回運営委員会で再検討し、参加希望者が 2 名の場合は代表者から参加希望者に 2 名でも分科会に参加する意向があるか確認したうえで、成立を認める方向になった。

4 月の人事異動が未定のため参加希望を出せない加盟館を考慮して、最終締め切りを 4 月 8 日に設定しているため、それまでに参加希望者が来ることを期待している。

今後は募集の方法、研究発表会等でのアピール、ホームページ等電子媒体の活用などで分科会の存続を考えていく必要があると考える。

## 《研究講演会》

### 私立大学図書館協会 2015 年度東地区部会研究講演会

日 時：2015 年 6 月 13 日（土） 10：45～16：45（受付開始 13：00）

会 場：東北学院大学 土樋キャンパス 8 号館 5 階 押川記念ホール

参加者：96 大学 165 名

司会者（研究部運営委員） 慶応義塾大学 吉田 真希子

- |         |                         |             |
|---------|-------------------------|-------------|
| 1. 開会の辞 |                         | 13：45～      |
| 2. 挨拶   | 研究部担当理事校 桜美林大学図書館長      | 清水 竹人       |
| 3. 講演   | 「日本図書館協会から見た大学図書館の課題」   | 14：00～15：00 |
|         | 日本図書館協会理事長 森 茜          |             |
|         | 質疑応答                    | 15：00～15：15 |
|         | <休憩>                    | 15：15～15：30 |
| 4. 講演   | 「ラーニングコモンズをめぐる学習環境デザイン」 | 15：30～16：30 |
|         | 東北大学附属図書館 事務部長 米澤 誠     |             |
|         | 質疑応答                    | 16：30～16：45 |
| 5. 閉会   |                         |             |

※講義のレジメは、「私立大学図書館協会会報」146 号に掲載予定

私立大学図書館協会 東地区部会  
加盟大学図書館長殿

私立大学図書館協会東地区部会  
研究部担当理事校  
桜美林大学図書館  
館長 清水 竹人  
研究部研修委員会  
委員長 伊能 秀明  
【公印省略】

私立大学図書館協会 東地区部会 研究部 2015 年度研修会について（お知らせ）

拝啓 仲秋の候、貴職におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。  
このたび、標記の研修会を下記のとおり開催いたします。  
つきましては、貴館から参加者をご派遣くださるようお願い申し上げます。

敬具

記

**1. テーマ：「大学の国際化と図書館英会話—“成城留学”で役立つ英語を学ぶ—**

近年、大学はグローバル化が進み、留学生や外国人教員の姿が増加しています。

そして大学図書館では、主として英語によるサービス対応の必要性が高まっています。

そこで、1 日目に大学の国際化を知るための講演、外国の図書館事情や英語対応の先進的事例報告、

**2 日目に大学図書館職員向け英語ワークショップを受講していただきます。**

ワークショップは、図書館サービスに必要とされる英語コミュニケーション力のスキルアップに役立つように、以下のポイントをねらいとします。

- ・図書館利用に関するベーシックな質問に的確な英語で答えられるようになること。
- ・図書館でよく使用される英語の語彙や表現の運用力を向上させること。
- ・館内の案内や掲示物を正確で分かりやすい英語で書けるようになること。

ワークショップ・アクティビティは、ペアないしは小グループで進め、指導は株式会社早稲田大学アカデミックソリューション語学教育部〔WAS〕に所属される教育・国際経験豊富なネイティブスピーカーまたは日本人講師がつとめます。

なお、英語の使用頻度やレベルは各人各様と推察されますので、事前の自己申告によりクラス分けを行います。ぜひ会話練習に積極的にチャレンジしてください。

また参加者間の情報交流に資するため、意見交換会を1日目の夕暮れ時に設定しました。

より多くの私立大学図書館員が参集されますよう、研修委員会委員一同ここから受講のお申込みをお待ちしています。

2. **開催日時** : 2015年11月4日(水)～11月5日(木) 2日間

3. **開催会場** : 成城大学図書館(大学正門を入り右手の建物)

東京都世田谷区成城6-1-20

アクセス : <http://www.seijo.ac.jp/access>

4. **費用** : 受講無料

※意見交換会に参加される方は、参加費一人1,000円を当日集金します。

5. **募集人員** : 60名

※英語力は問いませんが、全日程の積極的な参加をお願いします。

1 大学(加盟館)1名を優先しますが、複数名の申込みも受け付けます。

6. **研修内容** :

第1日(11月4日) \*受付開始は9:30

10:00～10:10 開会挨拶

10:10～11:10 講演「大学の国際化と図書館」(仮) 成城大学法学部教授 木畑洋一氏

11:10～11:20 連絡等

11:20～12:40 昼食休憩

12:40～14:00 先進事例「外国の図書館事情」(仮) 成城大学法学部教授 指宿信氏

14:00～14:15 休憩

14:15～15:15 先進事例「大学図書館英語対応事例」(仮) 明治大学中央図書館 久松薫子氏

15:15～15:30 休憩

15:30～17:00 ワークショップ1:自己紹介とウォームアップ

早稲田大学アカデミックソリューション語学教育部 [WAS]

URL : <http://www.w-as.jp/>

17:15～18:30 意見交換会(会場校内)

第2日(11月5日)

10:00～12:00 ワークショップ2:図書館ツアー [WAS]

12:00～13:15 昼食休憩

13:15～14:30 ワークショップ3:カウンター応答 [WAS]

14:30～15:30 ワークショップ4:ポスター作成 [WAS]

15:30～15:45 休憩

15:45～16:30 ワークショップ5:ポスター発表 [WAS]

16:30～16:55 アンケート記入

16:55～17:00 閉会挨拶



## 7. 参加申込：

参加ご希望の方は、下記の私立大学図書館協会ホームページ 2015 年度研修会参加申込用 URL からお申し込みください。

URL：[http://www.jaspul.org/FS-APL/FS-Form/form.cgi?Code=work\\_2015\\_1](http://www.jaspul.org/FS-APL/FS-Form/form.cgi?Code=work_2015_1)

### 注意事項

- (1) 申込み締切：10月8日（木）
- (2) 参加申込された方には、受付完了メールが自動返信されます。  
メールが届かない場合は、後記の事務局へお問い合わせください。
- (3) 参加の可否は、10月15日（木）までに申込者全員に連絡します。  
メールが届かない場合は、後記の事務局へお問い合わせください。
- (4) 参加できない事情が生じた場合は、速やかに事務局へご連絡ください。
- (5) 研修会での写真、議論・アンケートの内容は、主催者側が作成する報告書、広報資料、研究報告、ホームページ等に使用する場合がありますのでご了承ください。
- (6) 講演中の写真撮影、録音および録画はご遠慮ください。
- (7) ご提供いただいた個人情報は、当研修会の実施に関する連絡等に利用します。  
取得した個人情報は、上記の目的以外で利用することはありません。（但し、法令等により提供を求められた場合を除きます。）

### 【申込方法】

- ① すべての項目を入力後、「確認」ボタンを押してください。

2015年度研修会参加申込フォーム			
申込締切は、2015年10月8日（木）となります。 1大学（加盟館）1名を優先しますが、複数名の申込みも受け付けます。			
図書館名	<input type="text"/>		
申込者氏名	<input type="text"/>		
申込者氏名ヨミ (全角カタカナ)	<input type="text"/>		
所属・職名	<input type="text"/>	担当業務	<input type="text"/>
TEL	<input type="text"/>	FAX	<input type="text"/>
申込者連絡先(E-mail)	<input type="text"/> (確認のため再度入力してください)		
参加理由・目的	<input type="text"/>		
英語スキル (過去に受験したTOEIC、 TOEFL、英検等のスコア、 および取得年月)	<input type="text"/>		
業務上の英語の使用頻度 (毎日、週に数回、月に数回、 年に数回、使わない)	<input type="text"/>		
海外留学、または、海外在住経験 (留学または在住国、期間)	<input type="text"/>		
意見交換会 (参加費1,000円当日集金)	<input type="radio"/> 出席 <input type="radio"/> 欠席		
<input type="button" value="確認"/> <input type="button" value="リセット"/>			

- ② 入力内容に問題がある場合は、エラー画面が表示されます。  
画面の指示に従って、再度入力してください。
- ③ 入力内容に問題がない場合は、確認画面が表示されます。  
入力内容を確認の上、「確定」ボタンを押してください。
- ④ 完了画面が表示され、入力したメールアドレスに受付完了メールが届きます。

☆ 問い合わせ先：私立大学図書館協会 東地区部会 研究部事務局  
桜美林大学図書館 三上  
〒194-0294 東京都町田市常盤町 3758  
E-mail : [eastlib@obirin.ac.jp](mailto:eastlib@obirin.ac.jp)

※FAX・電話によるお問い合わせはご遠慮ください。

開催通知は、下記の私立大学図書館協会東地区部会ホームページにも掲載されます。

<http://www.jaspul.org/east/index.html>

## 大学の国際化と図書館

私立大学図書館協会東地区部会研修会  
2015年11月4日

木畑洋一(成城大学法学部)

## 成城大学国際化の現状

- 2015年4月国際センター発足←国際交流室
- 海外協定校:13大学(今年からの新規2校)  
米6、中2、仏1、英1、独1、ベルギー1、豪1
- 交換留学受け入れ留学生:16名、派遣:8名
- 送り出し:交換留学、認定留学、短期語学研修、海外インターンシップ(マレーシア)
- 国際交流科目:Academic Skills; Area Studies; Japan Studies; Special Topics

## 私の経験(前任校において 1)

- 大学間協定締結(1994):東京大学ーシドニー大学
- AIKOM(Abroad in Komaba:短期交換留学制度、95発足)への関与  
96-98および2008-09: Director
- AIKOM発足時の図書購入  
初年次:約1000万円、2年目:約500万円、その後減少

## 私の経験(前任校において 2)

- 東アジア四大学フォーラム(BESETOHA)  
1999年から  
東京大学、ソウル大学校、北京大学、ベトナム国家大学ハノイ校の持ち回り  
東アジアの大学の経験と問題意識の交流  
原則として四つの言語による会議運営  
通訳の問題  
最近は英語多用への変化?

## 大学の国際化とは?

- 国際的な場で通用する教育力、研究力をもつ大学としての発展
- とりわけ「グローバルな人材」の育成  
(ただし「グローバルな人材」とは?…後述)
- そのための教育環境の整備  
「THE大学ランキング」での国際化の指標  
留学生比率;外国人スタッフ比率;国際的ジャーナル発行

## キャッチワードとしての グローバル人材

- ある定義(明治大学国際連携本部長勝悦子教授)
- ①アイデンティティを確立し、新しい環境の中で柔軟に変化・成長できる人材
- ②異文化を理解し、自らを表現し、新たな価値を創造できる人材
- ③それを可能とする語学力(英語力)を備えた人材
- ④自ら判断し、現場に入ってものごとを動かす「現場力」をもった人材
- ⑤高度な専門能力と国際教養を備えた人材

出典)勝悦子「「グローバル時代の強い個」の育成のために」

## 日本の大学の国際化の歴史(1)

- 大学制度初発時の国際性
- 旧制高校・旧制大学での中国人留学生など
- 1970年代、国際化議論の開始。しかし大学の国際化は進まず、外国人の採用は80年代から。留学生10万人計画
- 1990年代、グローバル化のなかで「国際・・・学部」など急増、交換留学も本格化（他方で、実質的な「教養」つぶし！）

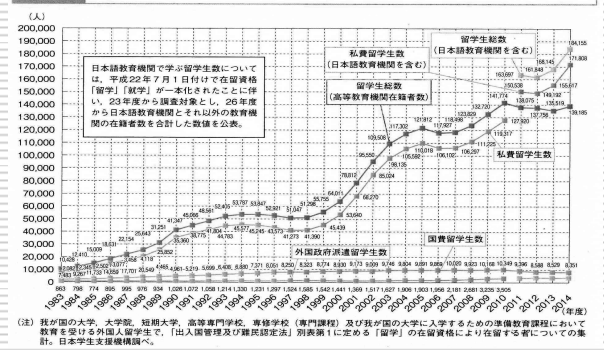
## 日本の大学の国際化の歴史(2)

- 21世紀COEプログラム(2002)や特色GP(2003)のなかでの国際化志向  
キーワードとしての国際化、国際教育、国際交流
- 国際性を前面に打ち出す立命館アジア太平洋大学(2000)や国際教養大学(2004)  
(←先蹤としてのICU、上智)
- 留学生30万人計画(2008)
- 「グローバル30」(2009)
- 日本人留学生倍増(12万人)計画(2013)

## 日本の大学の国際化の現在(1)

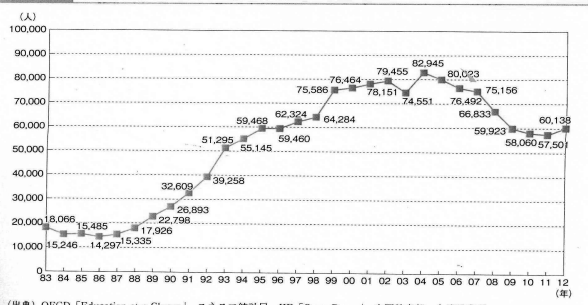
- スーパーグローバル大学創成事業(2014～)  
タイプA: トップ型: 世界レベルの教育研究  
タイプB: グローバル牽引型: 日本社会のグローバル化を牽引
- 国際化の施策  
外国人教員の増加、留学生の増加、外国語(主として英語)による授業の増加、英語のみでの学位取得コース創設、海外拠点設置など

図表 2-10-1 留学生数の推移(各年5月1日)



出典『文部科学白書2014』

図表 2-10-3 海外の大学等に在籍する日本人学生数



出典『文部科学白書2014』

## 日本の大学の国際化の現在(2)

- 国立大学中期計画素案(2015)  
(以下『日本経済新聞』21/10/2015による)
- ・8割近くの大学が国際化を進める具体的目標
- ・67大学が外国人留学生受け入れの数値目標
- ・66大学が海外留学する日本人学生の目標設定
- ・41大学が外国人教員の数や比率
- ・18大学が事務職員のTOEICの点数目標設定  
(例: 北大 TOEIC700点以上の職員20%)

### 日本の大学の国際化の問題点(1)

- 日本社会全体の国際化？  
ヘイト・スピーチ  
難民受け入れへの消極性  
国立大学への国旗掲揚・国家斉唱要請
- 国際化と「アメリカ化」・西洋化  
秋入学が国際化？  
英語は重要、しかし・・・
- 国際化・グローバル化至上主義？

### 日本の大学の国際化の問題点(2)

- 大学内のコンセンサスの問題  
学部・研究科による温度差？  
文系と理系の差？  
積極的な「国際・・・学部」と消極的な？？学部
- 国際化はお金がかかる。労力がかかる。  
→それに足る予算は？人員は？
- 留学生や外国人研究者受け入れの物質的条件

### 日本の大学の国際化の問題点(3)

- E.ヴィッカーズ/J.ラプリー「外国人教員から見た日本の大学の奇妙なグローバル化」の論点  
・外国人学者を誘引できる条件・環境の不足  
・10年後の三つのシナリオ(国際化成功/完全な失敗 /「出島オプション」)  
・授業を充実させるには教員の時間不足←会議  
・研究休暇制度の不足、等々
- ◎「アウトサイダー」との交流こそが日本を再生

出典)『中央公論』2015年7月号

### 国際化と大学の体制(1)

- 外国語(英語)による授業の増加？  
担当できる教員の問題  
授業の質・レベルの問題
- 「外国人教員等」の定義？  
国外の大学での学位取得、通算1年以上国外で教育研究に従事した日本人教員を含む
- 単位互換制度などの整備
- ダブル・ディグリー / ジョイント・ディグリー

### 国際化と大学の体制(2)

- 外国語(英語)による事務体制  
国際交流担当部門の充実  
学内情報伝達・文書の外国語(英語)化  
外国語(英語)での対応可能な職員配置
- 大学の内容についての国際的発信  
英語版HPは定着  
ただしそれ以外(中国語、ハングル)では？

### 国際化と大学図書館(1)

- スーパーグローバル大学計画調書から  
・図書館への言及は全般的に少ない(例外後述)  
・「これまでの取り組み」として触れられる  
ラーニング・コモンズ設置 / リポジトリ充実 / 海外図書館への職員派遣など
- ・将来計画  
ラーニング・コモンズ設置 / 開館時間延長 / 外国人や外国語能力ある職員配置など

## 国際化と大学図書館(2)

### □ 九州大学(タイプA)の計画調書から 国際化拠点図書館構想

全ての学生が等しく利用できるように留学生に配慮した図書館を新設し、国際コースで開講される科目の英語教材だけでなく、海外の新聞・新刊書籍情報などを充実させ、九州大学在籍の教員・学生が世界中の図書情報を容易に入手できる環境を整備する。さらに、大学院生の研究内容(博士論文)を英語で発信し、東アジアにおける知的財産の最高レベルの発信拠点を目指して整備していく。

## 国際化と大学図書館(3)

### □ 金沢大学(タイプB)の計画調書から 附属図書館の国際化の促進と学習支援機能強化

図書館は留学生にとって学修と交流のために最も多くの時間を過ごす重要な場所であることから、

(1)国際交流ルーム(英語以外の使用を禁ずる日本人学生と留学生の交流スペース)を新たなタイプのラーニング・commonsとして本学の3つの基幹図書館に設置し、日本人学生と留学生の<学び>を通じた交流を促進する。

## 国際化と大学図書館(3)続

(2)高度TAの研修を受けた留学生を「留学生ラーニング・コンシェルジュ」(自国からの留学生の学修サポーター)として図書館で雇用し、高度な図書館業務にも精通させることによって帰国後の「サブジェクト・ライブラリアン」としての能力を養成する。

## 国際化と大学図書館(4)

- 基本的な図書館業務の充実が国際化の要請に応える基軸  
開館時間延長 / 図書館利用者支援 / ラーニング・commonsなど学習の場の整備
- 国際化を念頭に置いた図書配置  
外国語多読コーナー / 多文化コーナー / 留学生用日本関係図書コーナー
- 外国語での対応能力の向上
- 何よりも国際化に立ち向かう図書館員の意識

# 豪州図書館事情から学ぶ ：本と電子の狭間で

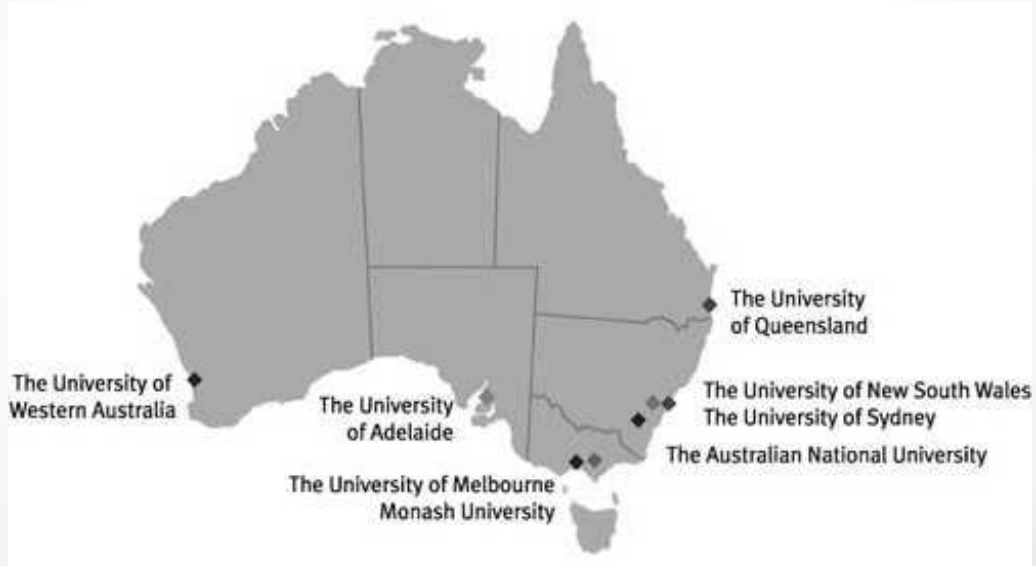


指宿 信  
成城大学法学部教授  
2015年11月4日

## Agenda

- はじめに
- 1. 豪州の大学事情
- 2. ニューサウスウェールズ大学図書館・法学部図書室
- 3. シドニー大学法学部図書室
- 4. オーストラリア国立大学法学部図書室
- 5. シドニー工科大学図書館
- まとめと感想

# 豪州主要 8 大学



## はじめに

- 調査の目的（法学資料室の移転を控え、海外調査の一環として）
- 調査日程（2014年3月16日～4月1日）
- 訪問先（大学図書館・図書室：5大学、公共図書館：3館）、面談者（図書館関係者10人、大学関係者6人）



# 1. 豪州の大学事情

- 職業職能訓練的志向が強い
- デュアルディグリーの普及
- 大量の留学生受け入れ、国際交流への熱意
- 国際的に高い評価（あるランキングでは20位以内に5校）

## オーストラリアの留学生数 2012年(国別)

下の表は2012年の海外からの留学生入学者数を国別にまとめたものです。（学生ビザの留学生のみ対象）アジアの国が上位を占めています。

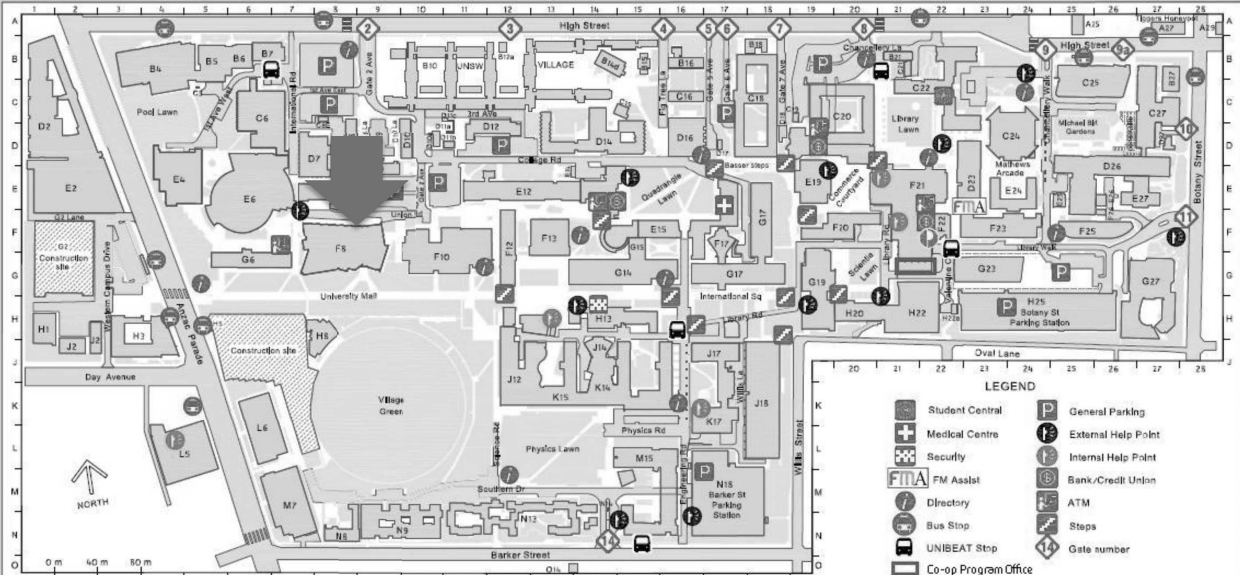
国籍	入学者数	割合
中国	223,808	29.65%
インド	81,081	10.74%
韓国	44,061	5.83%
ベトナム	34,341	4.54%
タイ	32,777	4.34%
マレーシア	30,525	4.05%
ブラジル	26,299	3.49%
インドネシア	26,255	3.48%
その他の国	255,666	33.88%
合計	<b>754,813</b>	<b>100.00%</b>

## QS World University Rankings by Subject 2013 - Law

ランキング	大学名	国名
1	ハーバード大	合衆国
2	ケンブリッジ大	英国
3	オックスフォード大	英国
4	イエール大	合衆国
5	メルボルン大	豪州
10	シドニー大	豪州
12	ニューサウスウェールズ大	豪州
13	モナーシュ大	豪州
14	オーストラリア国立大	豪州
16	キングスカレッジ	英国
17	カリフォルニア大バークレー	合衆国
18	パリ大ソルボンヌ	フランス
20	香港大	香港

### 3. ニューサウスウェールズ大学・法学部

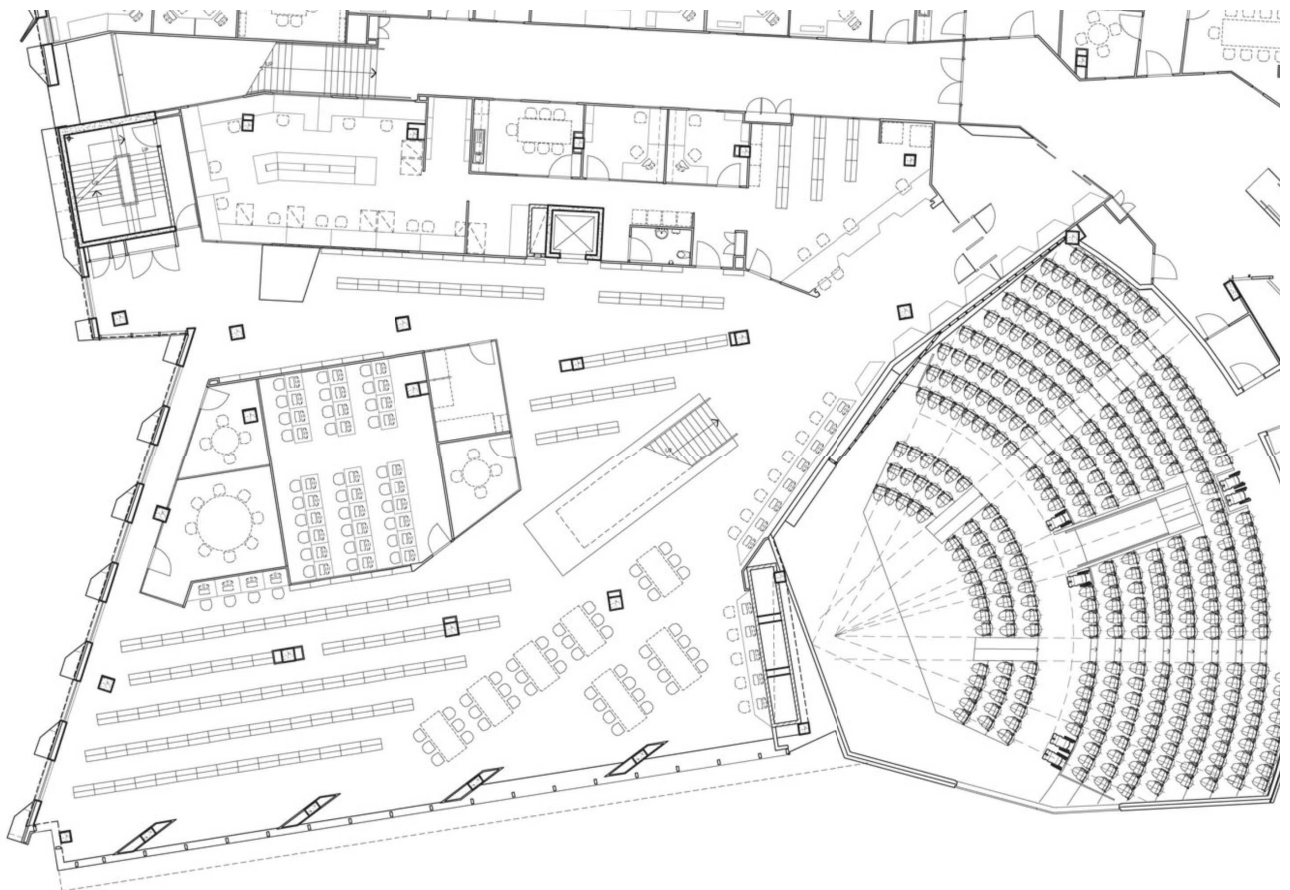
- 1949年創設、学生数4万人。600の学部コースと大学院コース、76の学部大学院、69の研究所、4つの大学付属病院
- 教員スタッフ：5000人
- 2004年タイムズ高等教育ランキングで世界36位、欧州北米以外では8位、タイムズ世界大学ランキング2015-2016では82位
- 法学部学生（学部1500人、大学院950人、PD60人）
- 法学部スタッフ（合計108人うちテニユア70人：教授28人、兼担教授8人、兼任教授3人、准教授11人、兼担准教授1人、兼任准教授2人、上級講師26人、兼任上級講師2人、講師11人、兼任講師13人、上級フェロー3人）



Buildings	Maths	UNSW Fine (Maths Arcade)	Theatres	Science Theatre	Services	Student Recruitment Office
221 Anzac Parade	L5	F23	ACGM Theatres	C24	F13	F20
AGSM	G27	D7	Albion Arthur Robinson	F8	Kensington Legal Centre	F8
Australian School of Business	E12	C30	Biomedical Theatres	E27	Learning & Teaching Unit @ UNSW	F23
Biological Sciences	D26	J12	Central Lecture Block	E18	Library	F21
Blockhouse	G4	N2	Chemical Sciences Theatre	F10	Liaison Clinic	C22
Building D10	D16	K15	Civil Engineering (G1)	H20	Marketing Development	A27
Chancellor	C22	C6	Clancy Auditorium	C24	New South Innovations	M18
Chemical Sciences	F10	D24	Clayton Theatre	B14	Nursing Resource Centre	F21
Civil Engineering	H20	E15	Conrad Levy Theatre	F8	UNSW International Student Centre	H12
Computer Science	K17	H20	IO Myers Studio	J4	UNSW Student Central	C22
Dalton	F12	E6	Keith Burrows Theatre	F8	Venues and Events	F23
Electrical Engineering	G17	M15	Law Theatre	E15	Womens and Events	F23
Gold House J8 Botany Street	A27	H8	Mackay Theatre	C23		
John Goodson	F20	F25	Mathews Theatres	K15		
John Hillard Science	G19	G23	New South Global Theatre	S2		
Law	F8	E4	Old Main Building (112)	K15		
Library	E21	H22	Parade Theatres	K14		
Library Stage 2	F21	C27	Physics Theatre	K14		
Lowy Cancer Research Centre	C25	H1	Red Centre Theatre	M15		
Materials Science	E8	H1	Rex Vowles Theatre	G15		
			Rupert Myers Theatre			
			Webster Theatres			

## ニューサウスウェールズ大学図書館・ 法学部図書室

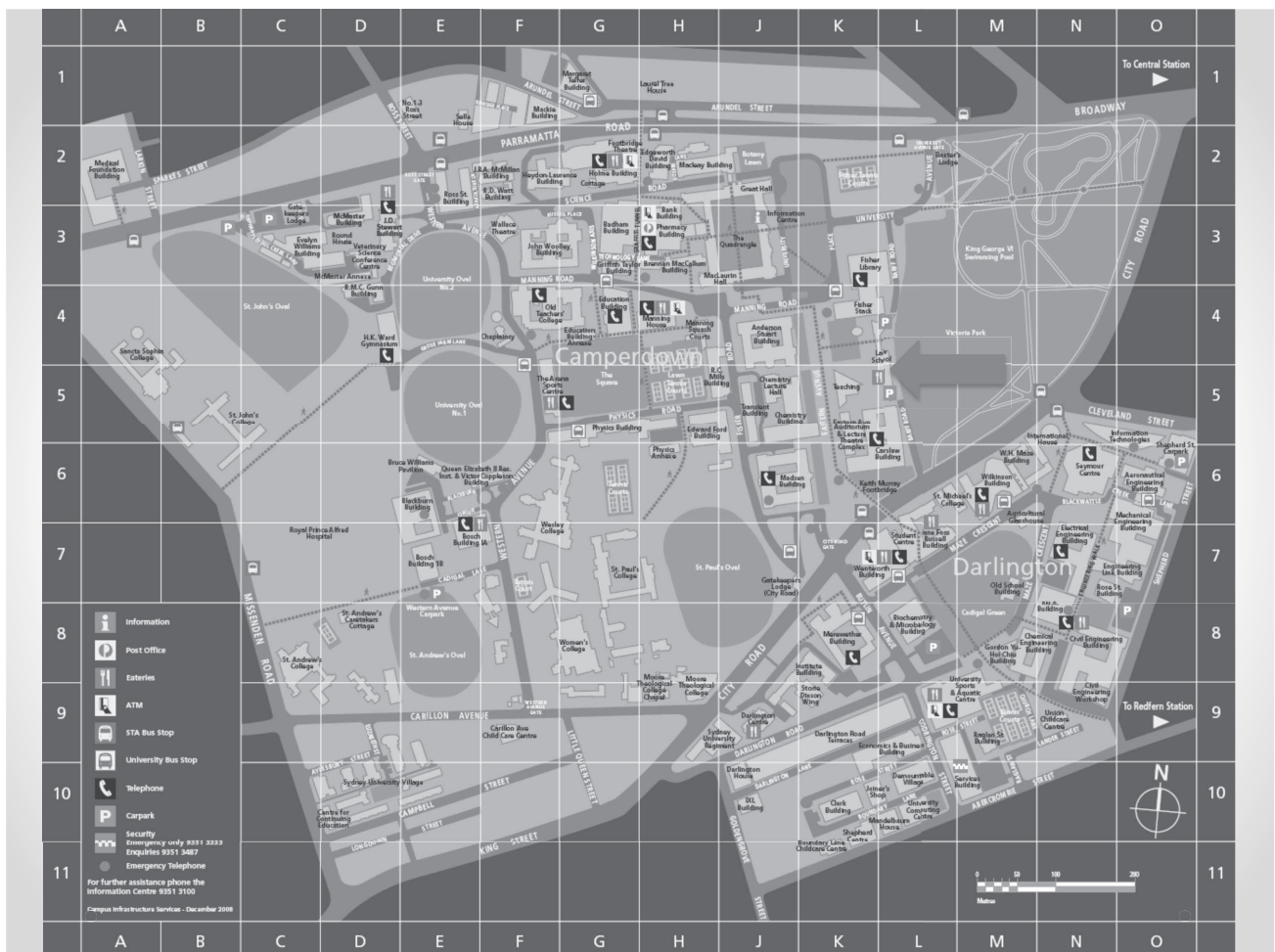
- 2007年に90%の雑誌をオンラインに移行、電子版優先政策(e-preferred policy)を採用
- 中央化によりスタッフを集中
- 年間250万人が3つの図書館を利用
- スタッフ数64人（法学部図書室担当専任はいない。ローテーション方式）
- 法学図書委員会はない。
- 教科書類の所蔵はしない。
- 教員からの寄贈を受け付けない。
- ディクソン法学部長は「教授団は現状に不満。書籍の排除について事前連絡なし。法学部生も他学部生がライブラリーに大量に入ってくることを嫌っている」



<https://www.youtube.com/watch?v=RI4ymZwJzgA>

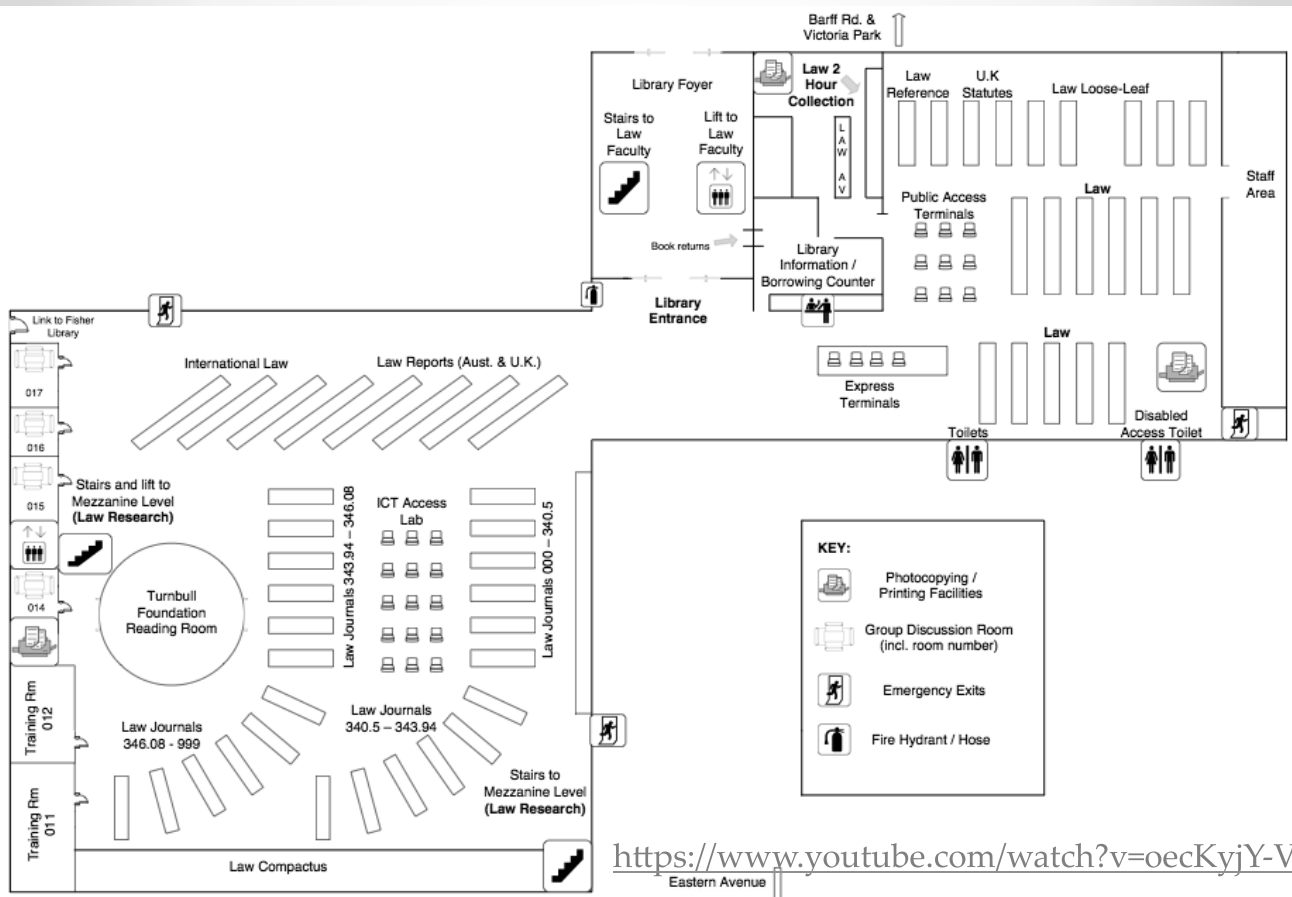
## 4. シドニー大学・法学部

- オーストラリア最古の大学（1850年創立）
- 教員3,400人、学生数5万2千人、16学部、3キャンパス体制
- 2010年QS社世界ランキングにおいて、人文科学分野19位、社会科学分野30位、生命科学分野で19位。総合評価で37位とされ、タイムズ世界大学ランキング2015-2016では第56位。豪州を代表する名門校のひとつ。
- 2009年、法学部の建物は市中からメインキャンパスに移転。7階建て。教室数23。300人収容大ホールあり。



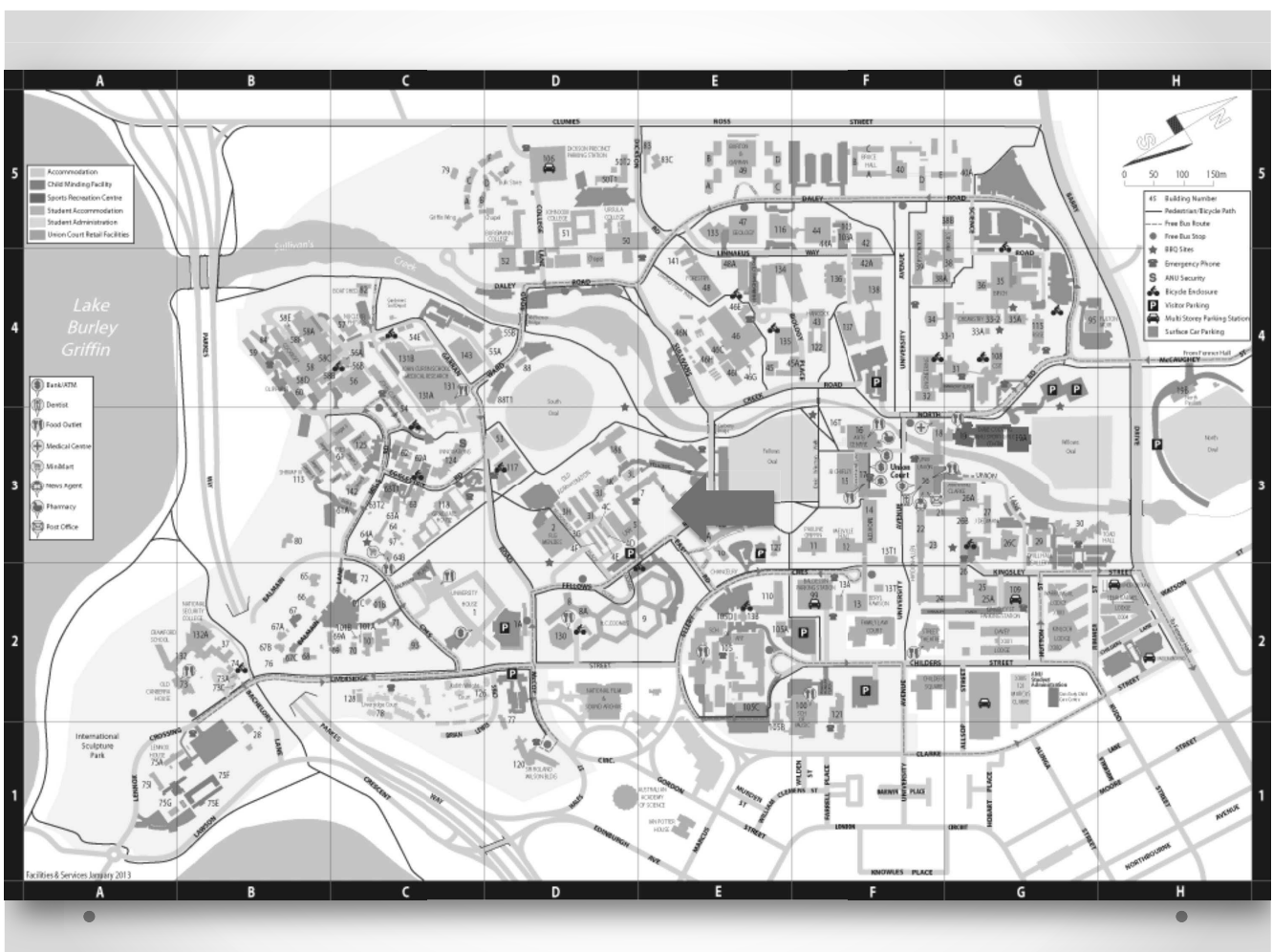
# シドニー大学法学部図書館

- 11ある学内図書館のひとつ。5000平米を誇る。単行本コレクションは豪州一。ただし電子ジャーナルでは遅れを取っている。農学図書館は完全にデジタル、オンライン化して建物はラーニングスペースとなった。
- スタッフは14人。教員と一緒にリーガルリサーチ初級や中級の授業を担当する。
- 選書はスタッフで専門に分かれて担当。主題別ガイドも作成している。推薦図書や論文、オンライン資料をライブラリアンが案内、教員が監修している。



## 5. オーストラリア国立大学法学部

- 1946年創立、世界でも有数の研究大学。世界大学ランキングで常に上位。Times 2013-14年ランキングでは48位
- 7つの学群から成る。1万5千人（留学生3500人）の学生で大学院主体。法学群は1960年創立。国際法や環境法に強いとされている。
- 法学部100人の教員団（正教授17人、准教授16人、上級講師19人、講師32人、大学院Migration Law 15人）
- 学生数（学部800人、大学院300人）





# オーストラリア国立大学 法学図書館

- 5つある大学図書館の一つ。フルタイムスタッフは7名。
- 開館時間延長は常に学生から要求があるが現状では対応できない。教員、博士候補、模擬裁判コンペ出場学生だけは24時間入館可。
- 書籍以外はできる限りオンラインにするポリシー
- カナダ、米国の判例集は倉庫に移し、ラーニングスペースを作る予定
- 図書館予算の90-95%は法令判例雑誌
- 1990年以前の雑誌は倉庫に移し、ルーズリーフは停止。ルーズリーフ専用の部屋もあったが廃止
- 選書はやらず、毎年シラバスをチェック。教員からの購入希望はほぼ自動的に受け入れ。新しいコースが出来るときだけ教員と相談して選書
- 複合分野でのコレクションが難しい。たとえば「犯罪学」の場合、アジア太平洋図書館、社会科学図書館、法学図書館に分散している現状。



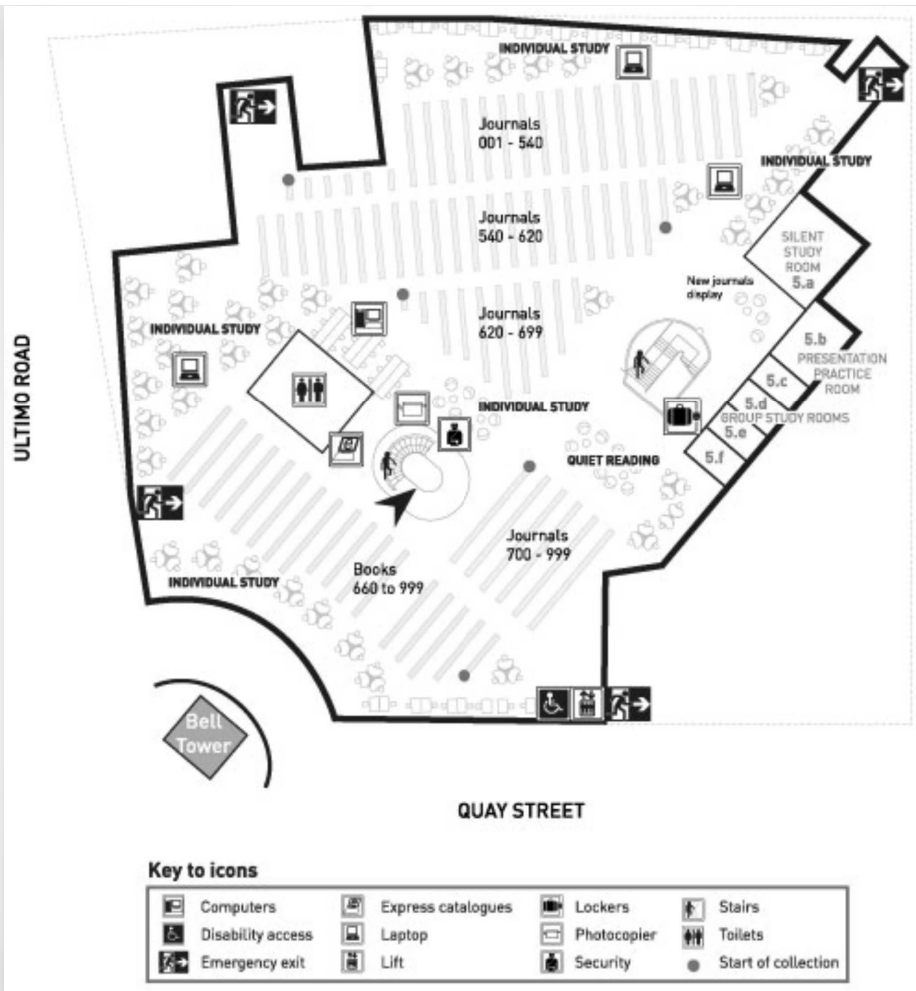


## 5. シドニー工科大学図書館

- 1975年創立。建築、ビジネス、コミュニケーション、デザイン、情報技術、法学など130の学部コースを提供
- 学生数：3万7千人（内、1万人が留学生）
- スタッフ総数：3100人
- 法学部学生1200人
- 法学部スタッフ（教員86人 職員24人）

## シドニー工科大学図書館

- 法学図書室はない
- 2014年6月に70%の書籍を学外倉庫に移動決定
- 5年間貸し出し記録のないタイトルを選別中（背表紙にxを付ける）
- 倉庫は近いので依頼から1時間以内で貸し出し可能予定
- ローライブラリアンはいない、6人の社会科学担当の内1人が責任
- 法学リサーチセンター（5人のフルタイムスタッフ）



# まとめと感想

- 雑誌については電子化が圧倒的に主流
- 書籍についてオフサイト所蔵が進行
- 図書館のラーニングセンター化が加速（スペースは図書から学習へ）
- 調べ型から長時間滞在型への変化
- 教員集団と図書館との軋轢発生
- それでも続く大量の紙の教科書類  
（写真:UNSW生協書籍部）や古書店の存在（次スクリーン）



## 大学図書館英語対応事例

明治大学 学術・社会連携部  
中央図書館事務室  
久松 薫子



## 私の英語バックグラウンド



- 海外経験なし
- 英語は小学校から
- TOEICは700点台



## 現在の担当業務（英語を使うもの）



- カウンター等の問い合わせ対応
- ツアー
- 海外 I L L

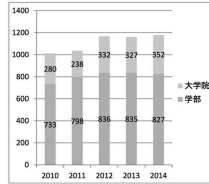


## 明治大学での留学生状況



①外国人受入留学生数

年度	学部	大学院	合計
2010	733	280	1013
2011	798	238	1036
2012	836	332	1168
2013	835	327	1162
2014	827	352	1179



各年度5月1日現在

明治大学ホームページより



□短期プログラム等、留学形態の  
多様化

□図書館ガイダンス要請の増加

□問い合わせもおそらく増加



どんなトレーニングをしているか？



□名古屋大学附属図書館様作成  
「大学図書館英会話集」

□Eメール



□ツアーは原稿を用意

□会話後に自分の表現をチェック、  
次に使う



□会話を聞く

私の場合は海外ドラマ

□日常のシーンを英語で表現



□ 語学スクール授業料補助

□ 語学研修

- ・TOEIC
- ・窓口対応
- ・クリエイティブスピーキング



なんとかなっている要因



## 背水の陣



□ 非ネイティブとは英語コミュニケーションがとりやすい

□ 流暢な英語でなくてよい



□ 問い合わせに鍛えられる

□ 問い合わせに来る学生・教員に助けられながら進められる



英語対応をして、得たこと・理解したこと



- やらないとできるようにならない
- 伝える・コミュニケーションをすることが第一（英語を話すことではない）



こうするとなんとかなる！

- 自分にもわかるシンプルな表現
- 確認をしながら
- 5語くらいの文章で



- まずはカウンター対応から
- ツアーをやるなら少人数（5名くらいまで）から



ご清聴ありがとうございました



## 2015年度研修委員会 活動報告

研究部研修委員会

委員長 伊能 秀明 (明治大学)

### 1. 2015年度研修会

#### ■実施概要

テーマ：「大学の国際化と図書館英会話―“成城留学”で役立つ英語を学ぶ―」

日 程：2015年11月4日（水）～11月5日（木） 2日間

会 場：成城大学図書館

費 用：受講無料 ※意見交換会の参加者は、参加費一人1,000円を当日集金した。

募集人員：60名 ※英語力は問わないが、全日程の積極的な参加をお願いした。

1大学（加盟館）1名を優先したが複数名の申込みも受け付けた。

#### ■開催趣旨：

近年、大学はグローバル化が進み、留学生や外国人教員の姿が増加しています。

そして大学図書館では、主として英語によるサービス対応の必要性が高まっています。

そこで、1日目に大学の国際化を知るための講演、外国の図書館事情や英語対応の先進的事例報告、2日目に大学図書館職員向け英語ワークショップを受講していただきます。

ワークショップは、図書館サービスに必要とされる英語コミュニケーション力のスキルアップに役立つように、以下のポイントをねらいとします。

- ・図書館利用に関するベーシックな質問に的確な英語で答えられるようになること。
- ・図書館でよく使用される英語の語彙や表現の運用力を向上させること。
- ・館内の案内や掲示物を正確で分かりやすい英語で書けるようになること。

ワークショップ・アクティビティは、ペアないしは小グループで進め、指導は株式会社早稲田大学アカデミックソリューション語学教育部〔WAS〕に所属される教育・国際経験豊富なネイティブスピーカーまたは日本人講師がつとめます。

なお、英語の使用頻度やレベルは各人各様と推察されますので、事前の自己申告によりクラス分けを行います。ぜひ会話練習に積極的にチャレンジしてください。

また参加者間の情報交流に資するため、意見交換会を1日目の夕暮れ時に設定しました。より多くの私立大学図書館員が参集されますよう、研修委員会委員一同こころから受講のお申込みをお待ちしています。

#### ■研修内容：

第1日（11月4日） \*受付開始は9:30

10:00～10:10 開会挨拶

10:10～11:10 講演「大学の国際化と図書館」 成城大学法学部教授 木畑洋一

11:10～11:20 連絡等



11：20～12：40 昼食休憩  
12：40～14：00 先進事例「外国の図書館事情」 成城大学法学部教授 指宿信  
14：00～14：15 休憩  
14：15～15：15 先進事例「大学図書館英語対応事例」 明治大学中央図書館 久松薫子  
15：15～15：30 休憩  
15：30～17：00 ワークショップ 1：自己紹介とウォームアップ  
早稲田大学アカデミックソリューション語学教育部 (以下, [WAS])  
URL : <http://www.w-as.jp/>

17：15～18：30 意見交換会 (会場校内)

第2日 (11月5日)

10：00～12：00 ワークショップ 2：図書館ツアー [WAS]  
12：00～13：15 昼食休憩  
13：15～14：30 ワークショップ 3：カウンター応答 [WAS]  
14：30～15：30 ワークショップ 4：ポスター作成 [WAS]  
15：30～15：45 休憩  
15：45～16：30 ワークショップ 5：ポスター発表 [WAS]  
16：30～16：55 アンケート記入  
16：55～17：00 閉会挨拶

■研修会参加者数 32大学45名  
意見交換会 約40名 (うち受講者20名 講師等10名)

■特記事項

- ①研修会のお知らせは、9月16日付けで発信し、申込み締切日は10月8日とした。
- ②研修会での写真、議論・アンケートの内容は、主催者側が作成する報告書、広報資料、研究報告、ホームページ等に使用する場合があることや講演中の写真撮影、録音および録画はご遠慮いただくよう周知した。
- ③[WAS] から講師 (外国人) 5名、サポート要員若干名の派遣があった。
- ④アンケートは集計後、統計的に処理したあと、公開するものとした。

■研修会の振り返り

- ①研修会終了後、アンケートの記述を回覧し受講者の感想や意見を委員間で共有化した。
- ②後日、[WAS] が独自に作成した「大学図書館職員向け英語ワークショップ 実施報告書」(A4判4頁) を受領した。

本研修会は、参加者によって個人差はあるけれども、開催趣旨に掲げたワークショップの3つのねらいは、全体的にほぼ達成することができたと思われる。

なお、ワークショップ形式の研修は、講演会形式に比して準備に係る労力が多大だった。

## 2. 研修委員会の構成

委員4名は2年、2012・2013年度委員長の山田委員（慶應義塾大学）は4年間の任期を終了した。

委員長 伊能秀明（明治大学）

委員 鈴木 努（早稲田大学 2014年度副委員長）

委員 植苗 翔（中央大学）

委員 酒見 佳世（慶應義塾大学）

委員 粕川 悠介（成城大学 2015年度副委員長）

委員 山田 雅子（慶應義塾大学）

事務局 三上 彰（桜美林大学）

2014・2015年度委員長は、オブザーバーとして2016・2017年度委員会に留任し、事務局も次年度留任する。

なお、研修委員会規則は、円滑な会議運営のため一部改正する予定であり、改正された規定の施行によって委員会の構成は変更される場合がある。

## 3. 委員会議事録のHP公開

諸般の事情により、主な項目のみ公開することとした。

以 上

## 2015年度私立大学図書館協会東地区部会研究部

## 決算報告書

2015年4月1日～2016年3月31日

## 収入の部

単位:円

科 目	予算額(A)	決算額(B)	差異(A-B)	摘 要
部会交付金	2,447,900	2,447,900	0	@13,000円 × 0.7 × 269校
研究会参加費収入	50,000	0	50,000	意見交換会参加費未開催
研修会参加費収入	70,000	25,000	45,000	意見交換会参加費:@1,000円 @1,000円 × 25 名
雑 収 入	1,000	609,857	△ 608,857	預金利息966円 分科会費残金返金608,891円
小 計	2,568,900	3,082,757	△ 513,857	
前年度繰越金	6,742,156	6,742,156	0	
合 計	9,311,056	9,824,913	△ 513,857	

## 支出の部

科 目	予算額(A)	決算額(B)	差異(A-B)	摘 要
研究会開催費	500,000	76,804	423,196	研究報告大会資料発送、スタッフ弁当、お茶等
研修会開催費	800,000	762,631	37,369	11/4-5 成城大学
運営委員会費	100,000	17,795	82,205	
運営委員・分科会 代表者合同会議	160,000	139,504	20,496	年2回開催 第1回 5/15 桜美林大学 第2回 11/13 学習院大学
分科会助成金	465,000	450,000	15,000	基本助成: 210,000 円 30,000×(6研究分科会+1研修分科会) 割増助成正会員: 240,000 円 ( 5,000 × 48 名)
特別助成金	1,300,000	1,192,000	108,000	研究分科会支援金(692,000円) 研修分科会支援金(500,000円)
研修委員会費	100,000	101,668	△ 1,668	
研究部活動費	50,000	0	50,000	研究部活動(運営委員会・研修委員会含む)
印 刷 費	300,000	194,940	105,060	研究部報告書:500部 封筒:1,000枚
通 信 費	50,000	5,902	44,098	依頼状等
運営事務費	100,000	15,692	84,308	ファイル・印刷用紙等
小 計	3,925,000	2,956,936	968,064	
予 備 費	5,386,056	0	5,386,056	
合 計	9,311,056	2,956,936	6,354,120	
東地区部会への戻入額	0	6,867,977	△ 6,867,977	
総 計	9,311,056	9,824,913	△ 513,857	

2015年度私立大学図書館協会東地区部会研究部決算報告は、以上のとおりです。

2016年3月31日

東地区部会研究部担当理事校

桜美林大学図書館



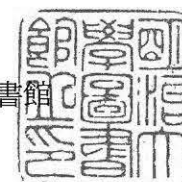
## 監査報告書

2015年度に係る決算報告書及び附属書類について、その証憑書類及び帳簿を監査しました結果、適正であることを認めます。

2016年4月6日

東地区部会監事校

明治大学図書館



2016 年度 私立大学図書館協会東地区部会研究部  
活動計画(案)  
(2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日)

1. 研究部活動方針

(1) 研究活動 (2) 研修活動 (3) 研究部関連ホームページの安定的運用

2. 活動計画

(1) 運営委員会

研究部の活動計画、予算・決算、研究部の運営その他について協議し、活性化に向けた活動を行う。年 8 回程度開催。

(2) 運営委員・研究分科会代表者合同会議

研究分科会活動計画・運営その他について協議する。  
2016 年 5 月、11 月の年 2 回開催。

(3) 研究講演会及び研究会

1) 「研究講演会」の開催。

2016 年 6 月部会総会・館長会終了後に開催。於：東京理科大学

2) 「交流会」(研究分科会活動中間報告)の開催。

2016 年 11 月開催予定。会場未定。

(4) 研修委員会

研修会の企画を立案し、実施する。年 8 回程度開催。

(5) 研修会

2016 年 11 月上旬開催予定。会場未定。

(6) 研究分科会

5 研究分科会が、各研究主題に沿って月例研究会・夏期研究合宿等の活動を実施する。

① 分類研究分科会

④ パブリック・サービス研究分科会

② 西洋古版本研究分科会

⑤ レファレンス研究分科会

③ 和漢古典籍研究分科会

休会：企画広報研究分科会

(7) 研修分科会(単年度活動)

(8) 地域研修

北海道、東北、北関東、甲信越・東海の各地域の加盟校の参加が容易な開催地での研修を企画し、実施する。

(9) オンデマンド研修(試行プロジェクト)

双方向型のラーニングデザインによるインタラクティブな研修を実施するための試行プロジェクトを開始する。

(10) 研究部報告書

2015 年度の研究部の活動記録を発行する。2016 年 6 月予定。

以上

**2016年度私立大学図書館協会東地区部会研究部予算(案)**  
(2016年4月1日～2017年3月31日)

**収入の部**

(単位:円)

科目	16年度予算(A)	15年度予算(B)	差異(A-B)	備考
協会交付金	6,050,000	2,447,900	3,602,100	2016年度より支出に応じた交付
研究会参加費収入	50,000	50,000	0	意見交換会参加費:@1,000円×50名
研修会参加費収入	70,000	70,000	0	意見交換会参加費:@1,000円×70名
雑収入	1,000	1,000	0	預金利息
<b>小計</b>	<b>6,171,000</b>	<b>2,568,900</b>	<b>3,602,100</b>	
前年度繰越金	0	6,742,156	△ 6,742,156	2015決算時に東地区部会に戻入
<b>合計</b>	<b>6,171,000</b>	<b>9,311,056</b>	<b>△ 3,140,056</b>	

**支出の部**

科目	16年度予算(A)	15年度予算(B)	差異(A-B)	備考
研究講演会(部会総会)	170,000	0	170,000	研究講演会の講師謝礼、交通費
研究会開催費	250,000	500,000	△ 250,000	「交流会」(研究分科会参加者の相互交流)の開催
研修会開催費	800,000	800,000	0	年1回開催
地域研修	755,000	0	755,000	2016年度より開催:研究部任期2年目に実施
オンデマンド研修	901,000	0	901,000	2016年度よりコンテンツ作成開始
運営委員会費	100,000	100,000	0	
運営委員会・分科会代表者 合同会議	160,000	160,000	0	年2回(5月・11月)
分科会助成金	420,000	465,000	△ 45,000	
内訳				
基本助成	180,000	210,000	△ 30,000	30,000円×(5研究分科会+1研修分科会)
割増助成会員	240,000	255,000	△ 15,000	5,000円×48名
特別助成	1,300,000	1,300,000	0	
内訳				
研究分科会支援金	800,000	800,000	0	
研修分科会支援金	500,000	500,000	0	
研修委員会費	100,000	100,000	0	
研究部活動費	50,000	50,000	0	研究部活動(運営委員会・研修委員会含む)
印刷費	250,000	300,000	△ 50,000	
内訳				
研究部報告書	200,000	200,000	0	研究部報告書:500部
研究部用封筒印刷代	50,000	100,000	△ 50,000	封筒:1,000枚 封筒の印刷数減のため減額
通信費	20,000	50,000	△ 30,000	
運営事務費	850,000	100,000	750,000	過去の研究部資料の電子化
<b>小計</b>	<b>6,126,000</b>	<b>3,925,000</b>	<b>2,201,000</b>	
予備費	45,000	5,386,056	△ 5,341,056	
<b>合計</b>	<b>6,171,000</b>	<b>9,311,056</b>	<b>△ 3,140,056</b>	
東地区部会への戻入額	0	0	0	
<b>総計</b>	<b>6,171,000</b>	<b>9,311,056</b>	<b>△ 3,140,056</b>	

## 《関係規程》

### 私立大学図書館協会東地区部会研究部細則

(昭和 29 年 4 月 1 日 制定)  
(昭和 34 年 5 月 8 日 改訂)  
(昭和 34 年 10 月 14 日 改訂)  
(昭和 44 年 2 月 18 日 改訂)  
(昭和 63 年 6 月 28 日 改訂)  
(平成 7 年 8 月 2 日 改訂)  
(2000 年 6 月 9 日 改訂)  
(2004 年 6 月 18 日 改訂)

第 1 条 この細則は、私立大学図書館協会会則（以下会則という）第 33 条第 1 項第 3 号、第 39 条及び第 40 条に基づいて、私立大学図書館協会東地区部会（以下東地区部会という）に研究部（以下研究部という）を設置し、事務所を東地区部会研究部担当理事校（以下研究部担当理事校という）に置くことを定める。

第 2 条 研究部は、会則第 39 条の目的達成のために次の事業を行う。

- ① 研究会の開催
- ② 研究分科会の育成
- ③ 報告書の発行
- ④ 西地区部会研究会との連絡、情報の交換
- ⑤ その他研究部の目的達成に必要な事項

第 3 条 研究会は研究発表及び研究部の事業についての報告その他を行う。

- 2 会場は東地区加盟校が輪番で担当する。

第 4 条 研究分科会は各研究分科会ごとに適宜開催し、その研究の進行状況、成果その他を研究部担当理事及び研究会に報告するものとする。

- 2 各研究分科会は本研究部より助成金を受けることができる。
- 3 各研究分科会は本研究部より特別助成金を受けることができる。

第 5 条 報告書は第 2 条の各事業の状況及び研究成果を発表するもので、研究部担当理事が編集の責任に当たる。

第 6 条 本研究部には、次の役員を置く。

- ① 研究部担当理事 1 名
- ② 運営委員 8 名

（東地区部会役員校 3 名 東地区加盟校 5 名）

第 7 条 研究部担当理事には、研究部担当理事校の代表者が当たり、本研究部を代表し、かつこれを統轄する。

第 8 条 運営委員は、隔年 4 月東地区加盟館から研究部担当理事が推薦し、東地区部会役員会の承認を得た上、研究部担当理事をたすけて本研究部の運営に当たる。

第9条 研究部には、本研究部の運営を円滑ならしめるため、運営委員会を置く。

第10条 運営委員会は、研究部担当理事が招集し、次の事項を行う。ただし、必要に応じて各研究分科会代表者あるいは当該研究会会場校代表者の出席を求めることができる。

- ① 研究部の事業計画
- ② 研究会の運営に関する事項
- ③ 各研究分科会間の連絡、情報の交換
- ④ 研究部報告の編集、発行
- ⑤ その他本研究部の運営に関する事項

第11条 本研究部の経費は、東地区部会の助成金及びその他を充てる。ただし、必要に応じて実費を徴収することができる。

第12条 研究部の運営について必要な事項は別に定めることができる。

第13条 本細則の改廃は、東地区部会総会の承認を要する。

## 附 則

- 1 本細則は昭和29年4月1日よりこれを実施する。
- 2 本改訂細則は昭和34年5月8日よりこれを実施する。
- 3 本改訂細則は昭和35年10月14日よりこれを実施する。
- 4 本改訂細則は昭和44年2月18日よりこれを実施する。
- 5 本改訂細則は昭和63年6月28日よりこれを実施する。
- 6 本改訂細則は平成8年4月1日よりこれを実施する。
- 7 本改訂細則は2001年4月1日よりこれを実施する。
- 8 本改訂細則は2004年6月18日よりこれを実施する。

## 私立大学図書館協会東地区部会研究部研究分科会申し合わせ

(昭和 48 年 4 月 1 日 制定)

(昭和 55 年 6 月 18 日 改訂)

(平成 7 年 9 月 25 日 改訂)

(2002 年 4 月 1 日 改訂)

(2003 年 4 月 1 日 改訂)

(2004 年 4 月 1 日 改訂)

(2005 年 4 月 1 日 改訂)

(2015 年 4 月 1 日 改訂)

第 1 条 この申し合わせは、私立大学図書館協会東地区部会研究部に研究分科会を置くことを定める。

第 2 条 本研究分科会は、私立大学図書館協会東地区部会研究部細則の当該条項に則って活動するものとする。

第 3 条 各研究分科会は、以下の要件を備え、かつ、複数の大学に所属する正会員 3 名以上をもって構成されるものとし、研究部運営委員会の議を経て研究部担当理事の承認を得なければならない。ただし、やむを得ぬ事情により会期中に正会員数が 3 名未満となった場合、研究部は活動の継続を認めることがある。

- ① 当該年度の研究テーマ
- ② 当該年度の研究回数
- ③ 当該テーマの研究に必要とされる条件
- ④ 会費徴収額

第 4 条 各研究分科会は代表者 1 名を置くものとする。

第 5 条 各研究分科会の活動期間は 2 年とし、更新することができる。更新にあたっては、研究部運営委員会の議を経て担当理事の承認を得なければならない。

第 6 条 新規に研究分科会を発足するにあたっては、会員更新担当理事に対し、第 3 条の要件を更新年度の前年 12 月までに示さなければならない。

第 7 条 会員更新担当理事は、研究分科会更新前年度の所定の日までに、加盟館代表者に、第 3 条各号の事項を通知し、加盟館における参加者選定の基準を示さなければならない。

第 8 条 加盟館代表者は、更新前年度の所定の日までに、各研究分科会の参加者を決定し、会員更新担当理事に通知するものとする。

- 2 会員更新担当理事は、この通知に基づき、当該研究分科会代表者に諮ったうえ、各研究分科会の会員として登録する。



- 第9条 各研究分科会の活動期間中に、途中入退会者があった場合、研究分科会代表者は書面をもって、月例担当理事に通知するものとする。
- 第10条 各研究分科会は、研究部より助成金を受けることができる。  
2 各研究分科会は、研究部より特別助成金を受けることができる。但し、助成にあたっては、研究部運営委員会の議を経て担当理事の承認を得なければならない。
- 第11条 研究分科会代表者は、当該研究分科会を主宰するとともに、毎月末までに翌月の開催計画を、月例担当理事に連絡するものとする。
- 第12条 研究分科会代表者は、毎年研究部担当理事に、研究分科会の活動状況及び会計報告をしなければならない。
- 第13条 研究分科会代表者は、研究部担当理事の求めに応じて、研究部運営委員会に出席することができる。ただし、議決権を持つことができない。
- 第14条 各研究分科会は、その研究の成果を研究部の開催する研究会において原則として発表しなければならない。
- 第15条 研究分科会代表者は、毎年2回（5月・11月）開催される運営委員会・代表者合同会議に出席しなければならない。但し、代表者が出席できない場合は代理による出席を認める。代理も不可能である時は、特に研究部が認めた場合この限りではない。
- 第16条 本申し合わせの改廃は、研究部運営委員会の議を経て研究部担当理事の承認を得て行うものとする。

#### 付 則

- 1 本申し合わせは、2004年4月1日から施行する。
- 2 本申し合わせは、2005年4月1日から施行する。
- 2 本申し合わせは、2015年4月1日から施行する。

# 私立大学図書館協会東地区部会研究部研修委員会規則

(昭和56年4月 1日 制定)

(平成 2年4月 1日 改正)

(平成 8年3月28日 改正)

第1条 この規則は、東地区加盟館館員の資質の向上を図るため、私立大学図書館協会東地区部会研究部（以下研究部という）に、研修委員会（以下委員会という）を設置することを定める。

第2条 前条の目的達成のため委員会は、次の活動を行う。

- (1) 研修会等に関する情報の収集、提供
- (2) 研修会等の企画、実施
- (3) 関連する機関、団体との連絡・協力
- (4) その他目的達成のために必要な活動

第3条 委員会は6名の委員をもって構成し、うち1名は研究部担当理事校（以下担当理事校という）から選出する。

第4条 委員の任期は2年とし、再任はさまたげない。ただし、担当理事校から選出された委員の任期は担当理事校の担当期間とする。

第5条 委員に欠員が生じた場合はすみやかに補充するものとし、その任期は前任者の残任期間とする。

第6条 委員会は研修会等を企画・実施する際、その必要に応じて、実行委員若干名を置くことができる。

第7条 委員会に委員長を置く。

- 2 委員長は委員会を招集し、議事を進行する。

第8条 委員長及び委員は東地区加盟館から研究部担当理事（以下担当理事という）が推薦し、東地区部会役員会に諮り、これを委嘱する。

第9条 委員長は委員会の活動について、担当理事に対し、少なくとも年2回以上報告しなければならない。

第10条 委員会の事務経費については、私立大学図書館協会東地区部会研究部細則第11条を準用する。ただし、研修会等を実施する際の費用は、原則として受益者負担とする。

第11条 委員会の運営に関する事項は委員会申し合わせとして別に定めることができる。

第12条 この規則の改廃については研究部運営委員会の承認を必要とする。

## 附 則

この規則は平成8年4月1日より施行する。